創立20周年記念

見守ろう 大堀川

2017年3月

大堀川の水辺をきれいにする会

発行　大堀川の水辺をきれいにする会
印刷製本　ダイシンプリントプラン㈱
（C）2017.3, 大堀川の水辺をきれいにする会

検索　**大堀川の水辺**
http://ohorigawa.ciao.jp/

創立２０周年記念誌の発行にあたって

大堀川の水辺をきれいにする会
代　表　小林　とし え

１９９７年３月の発足から本年で２０年を迎えることになり、７代目の代表である私にとっては、当初より参加していることもあり感慨深いものがあります。

初代代表の寺尾さんから北柏のとある事務所に、大堀川の第一回清掃チラシの印刷と打ち合わせ場所の要請があったことが私と当会との最初の出会いでした。「大堀川のゴミ拾い？」との思いはありましたが、清掃後のゴミの山にビックリしました。

あれから２０年、継続は力なりと言われますが、大堀川をきれいにしたいという会員の思いの現れだと思います。毎年春は北柏ふるさと公園、秋は高田緑地で市民の皆さんや地域の企業、町会の参加を得て大清掃活動を行っています。12 月には「美しい手賀沼を愛する市民の連合会」との協働で統一クリーンデイでの清掃活動、「大津川をきれいにする会」との合同清掃が当会のゆるぎない年間行事となっています。

また、当会会員による月例活動として、大堀川に架かる主に 14 ヶ所の橋と橋の間の清掃、毎月第４土曜日の定例会、木崎橋近くの水辺花壇の手入れ（当会１０周年記念として柏市に寄贈した桜５本と併設）等を行っています。

このような当会の活動が認められ、２０１６年６月に環境大臣から「地域環境美化功労者」、国土交通大臣から「みどりの愛護功労者」として表彰を受けました。同年１２月には柏市社会福祉協議会から住民福祉活動功労者の表彰を受ける等当会の 20 周年を祝っていただいたような思いです。

昨年は、柏市立第四小学校４年生の児童全員が地域学習として大堀川を課題に取り上げ、４つのクラスで当会の会員が講師を務めました。その後「四小まつり」で大堀川について子どもの目から見た思いを発表してくれました。大堀川はいつまでも地域の人達に見守られる川であって欲しいと願っています。

２０周年記念誌に皆様からお祝いの言葉をお寄せいただいたこと、また長年にわたり伊藤ハム株式会社様・ヨシザワＬＡ株式会社様など多くの皆様に支えられ活動を続けてこられたことに感謝申し上げます。今後ともご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

最後に、大堀川がごみのない清流になることを願いつつ、２０周年記念誌発行の挨拶といたします。

２０１７年　吉日

ご祝辞

柏市長　　秋　山　浩　保

「大堀川の水辺をきれいにする会」設立２０周年を心からお喜び申し上げます。

「大堀川の水辺をきれいにする会」におかれましては平成９年，会を設立以来，市民と共に活動することを理念に，地域身近な環境保全活動を２０年の長きにわたり積み重ねられ，これら多様な活動は地域の皆様はもとより地域環境功労者として平成１９年に千葉県知事表彰を受賞され，昨年には環境大臣表彰を受賞されるなど多くの方々から高く評価をされてこられました。

これもひとえに会員皆様方の大堀川や手賀沼とそこに広がる豊かな水辺を愛する熱い想いによるご尽力の賜であり，深く敬意を表しますとともに心から感謝申し上げます。

昭和４０年代以降，大堀川は，市域中心部を東西に配する市民生活に欠くことのできない河川でありながら，急速な都市化の進展に伴い，生活雑排水の流入や廃棄物の不法投棄などにより，手賀沼とともに水質汚濁や河川環境の悪化が進むなど大変憂うべき状況が続いておりました。

このような中，地域の水辺環境を市民自らの手で取り戻そうと皆様が立ち上がられ，今日に至るまで市民はもとより事業者や行政と広く手を携えながら地道な環境保全活動を継続された結果，今では水辺でのジョギングや春には川面に映える桜並木の散策など，広く市民の癒しや憩いの場として，市街地に介在する貴重な水辺空間として愛され親しまれるまで蘇ってまいりました。

現在，市では第五次総合計画に基づき「地域の魅力や特性を活かし，人が集う活力あふれるまち」を重点目標の一つに掲げ，子どもから高齢者に至るまで，多世代がにぎわいを楽しめる魅力あるまちづくりをすすめているところです。

まさに皆様方のこれまでの活動が本市のまちづくりの先駆けであります。今後も引き続き，次世代へ美しい環境を引き継ぐため，貴重な環境資源の保全や回復，創造に向けた市民活動の範となるよう活動を継続されますことを大いに期待をしているところです。

結びに，「大堀川の水辺をきれいにする会」が２０周年の節目を迎え，今後一層のご発展とともに会員皆様方の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げ，２０周年記念誌に寄せてのお祝いの言葉といたします。

平成２９年　吉日

20周年おめでとうございます

美しい手賀沼を愛する市民の連合会
会長　八鍬 雅子

もう２０年になるのですね。貴会が出来る時「なぜ汚い川へ入って重たい自転車を引き上げるのか」と寺尾さんに尋ねました。「みんなが、川をきれいにしたいと思っているからです。」と明快なお答えがありました。朝　散歩をしていて、粗大ごみを見つけると引き上げずにはいられない、すばらしい方たちが集まって、発足されたのですね。

しかし２０年間休まず、くじけず続いてきたのは、きっと楽しいことが、沢山あったからと思います。めずらしい生き物の発見や、こども達の歓声や、なによりもゴミの量の軽減など、目に見えてきれいになっていく、大堀川に魅せられて、すばらしい仲間との楽しい会話などだと思います。

貴会の活動があっての大堀川です。活動を休めば悲しいけれど元に戻ります。大堀川河口では、ナガエツルノゲイトウの群落が、いくつも繁茂しています。美しい手賀沼を愛する市民の連合会では、貴会をはじめ、会員団体と協力して重機による、引き抜きをしましたが、それでは、一時的に発生を遅らせるだけした。人の手による引き抜きをして、ナガエツルノゲイトウを、もっと良く知り、退治したいと、思っています。どうぞ、これからも、ご一緒に、大堀川、手賀沼をきれいにして行きましょう。

２８年度、沢山の、表彰、受賞をされましたね。おめでとうございます。

これからも、がんばって活動を続けて下さい。

２０１７年　吉日

二十周年記念誌に寄せて

大津川をきれいにする会
会長　長原 邦子

大堀川の水辺をきれいにする会創立二十周年おめでとうございます。二十年とは本当に素晴らしいですね。過ぎてしまえばあっという間なのでしょうが、その時々では大変な思いをされたこともおありだったでしょうね。でも、皆さまの「和」が活動を続けてこられた一番の要因でしょうか。素敵ですね。

私が大堀川に出会ったのは、当会の前会長中村さんが生前まだまだお元気だった頃、会のウォーキングで北柏から流山まで大堀川沿いを歩いたことを思い出しました。広くてきれいな川で遊歩道には一休みするベンチもあり、うらやましくなりました。草地で休憩している時に川の反対側の小枝にカワセミを発見、いち早くカメラを取り出し撮ったのですが、小さなデジカメだったのでズームがあまりなく、プリントした写真を見てがっかりしました。これが一眼レフを購入するきっかけになりました。望遠レンズを付ければあのカワセミもきれいに撮れたのに・・・それ以来このカメラで清掃活動を撮り続けていますが、残念ながらカワセミは未だに撮れていません。

清掃活動と言えば、大堀川の清掃に参加し、ボートにも乗せていただきました。川から外の景色を見るのも中々いいなと、ちょっと遊び感覚の気持ちになりわくわくしました。清掃活動終了後の懇親会も皆さん優しい方ばかりでとても楽しいひと時でした。又、大津川での清掃活動は大堀川と違ってみんなが見える範囲での場所なのでカメラのレンズから覗くと水色の帽子とブルーの帽子が入り混じっての作業でとてもいい雰囲気でした。

お互い高齢化が進み（すでに後期の方も多いいのでは？）いつまで継続できるかわかりませんが、続く限り兄・弟の関係を大事にしたいと思います。皆様には健康に留意され、一年でも長く楽しく頑張ってください。

二十周年心からお喜び申し上げます。

２０１７年　吉日

大堀川の水辺をきれいにしよう！！

大北寛さんの撮影写真
をお借りしました

目 次

創立２０周年記念誌の発行にあたって　代表　小林 としえ　・・・　i

ご祝辞　　柏市長　秋山 浩保　・・・・・・　ii

　　美しい手賀沼を愛する市民の連合会 会長 八鍬雅子

　　大津川をきれいにする会　会長 長原邦子

目次　・・・・・・　vi

１．２０年間の活動内容　・・・・・・・・・　1

1.1　活動のあらまし　・・・・・・　1

1.2　当会の誕生　・・・・・・　3

1.3　市民参加の大掃除　・・・・・・　6

1.4　大堀川と流域の生き物しらべ　・・・・・・　１０

1.5　会員主体の毎月の川掃除　・・・・・・　１４

1.6　水辺花壇の整備活動　・・・・・・　１９

1.7　水質調査活動　・・・・・・　２１

1.8　広報・啓発活動　・・・・・・　２４

1.9　会員の親睦あれこれ　・・・・・・　２７

1.10　表彰等の履歴　・・・・・・　３１

1.11　当会の運営　・・・・・・　３２

２．データでみる当会の活動　・・・・・・・・・　３３

2.1　参加者数の推移　・・・・・・　３３

2.2　収集ゴミの数量の推移　・・・・・・　３４

３．大堀川あれこれ　・・・・・・・・・　３５

3.1　流域マップ　・・・・・・　３５

3.2　橋と樋管　・・・・・・　３８

3.3　変貌してきた大堀川　・・・・・・　４０

3.4　古文書にみる四方山話　・・・・・・　４１

3.5　大堀川の放射線量のその後　・・・・・・　４３

４．皆さまからの声　・・・・・・・・・　４４

５．会員からの声　・・・・・・・・・　５０

６．今後の活動に向けて／編集後記　・・・・・・・・・　５３

大堀川ゴミ拾い七つ道具　・・・・・・　５４

表紙の写真：当会活動記録から　　裏表紙の絵：当会の藤井昭義さん作

１．２０年間の活動内容

２００７年の１０周年記念誌で紹介した当会活動に加え、特に以来１０年間の２０１７年までに当会が進めてきた活動内容について、本章では１１節に分けて紹介します。

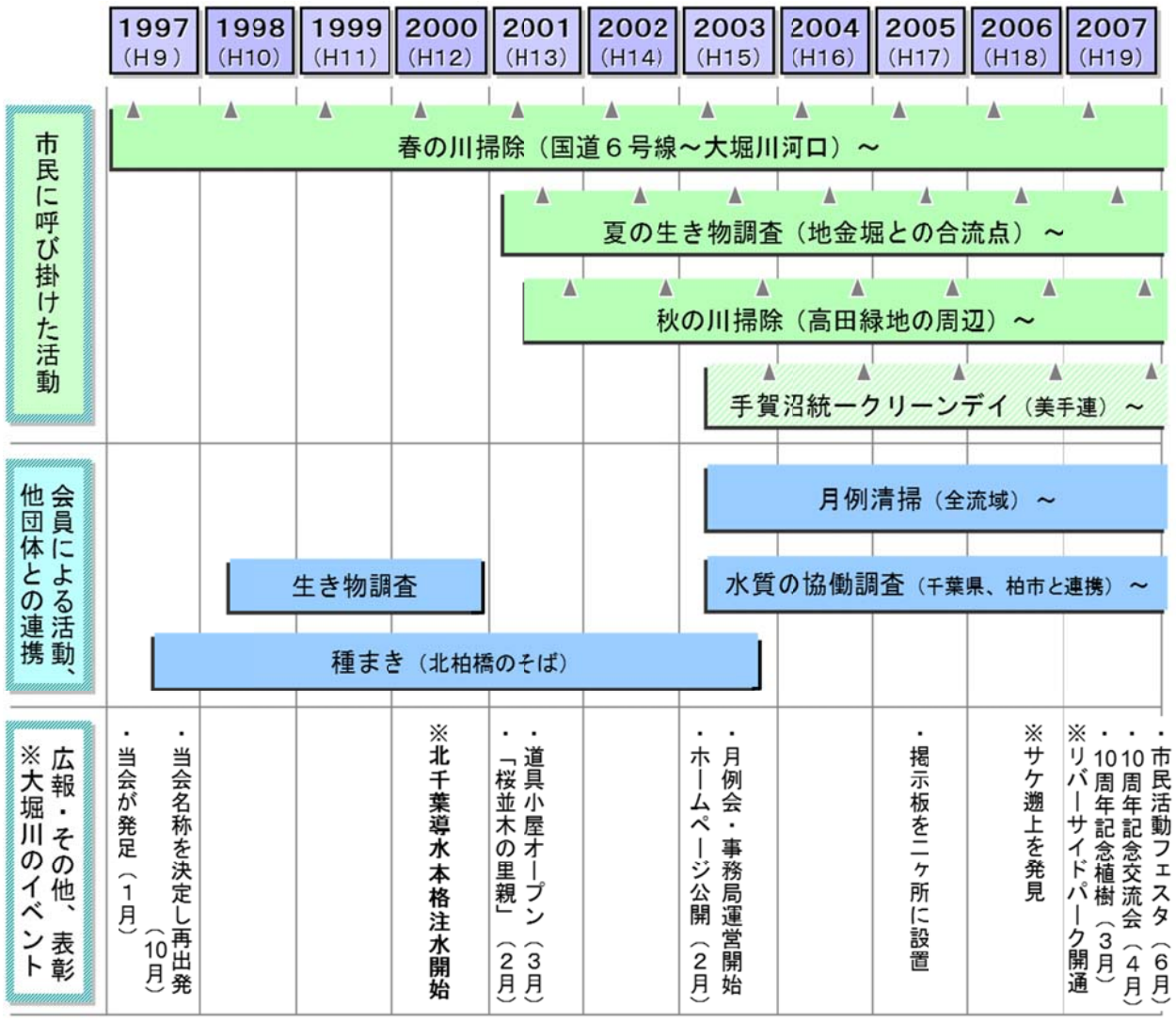
1.1　活動のあらまし

当会の活動は１９９７年１月（平成９年）、市民に呼び掛けての川掃除の準備からスタートしました。その後、「大堀川の水辺をきれいに！」を合言葉に、２０年にわたり会員皆で相談しながら活動を推進してきました。

創立以来の１０年間（下図左）では清掃活動を軸に活動内容の広がりがあり、以来の現在に至る１０年間（下図右）では継続的に活動を進めることができました。

（１）市民に呼び掛けた活動

「春の川掃除」は３月下旬に国道６号線からふるさと公園前を経て大堀川河口まで、「夏の生き物調査」は７月下旬に子ども達にも呼び掛けて（２０１２年以降休止中）、「秋の川掃除」は１０月頃に高田地区で実施しています。加えて「手賀沼統一クリーンデイ」では１２月に柏・大堀川地区を担当しています。



大堀川の水辺をきれいにする会の２０年間の活動の概略（１）

（２）会員による活動、他団体との連携活動

２００３年の月例会・事務局運営が開始し、会員中心で毎月実施する「月例清掃」が恒例化しました。千葉県・柏市と連携した「水質・生物の協働調査」、当初の北柏橋近く「種まき」を発展させ、２００８年に和草に親しめる「水辺花壇」を木崎橋そばに設置しました。

その他、手賀沼フォーラム連携の「わくわくウォーキング」、柏自然ウォッチャーズ連携の「生物調査」等も積極的に取り組んできました。

（３）広報・啓発活動、その他の活動

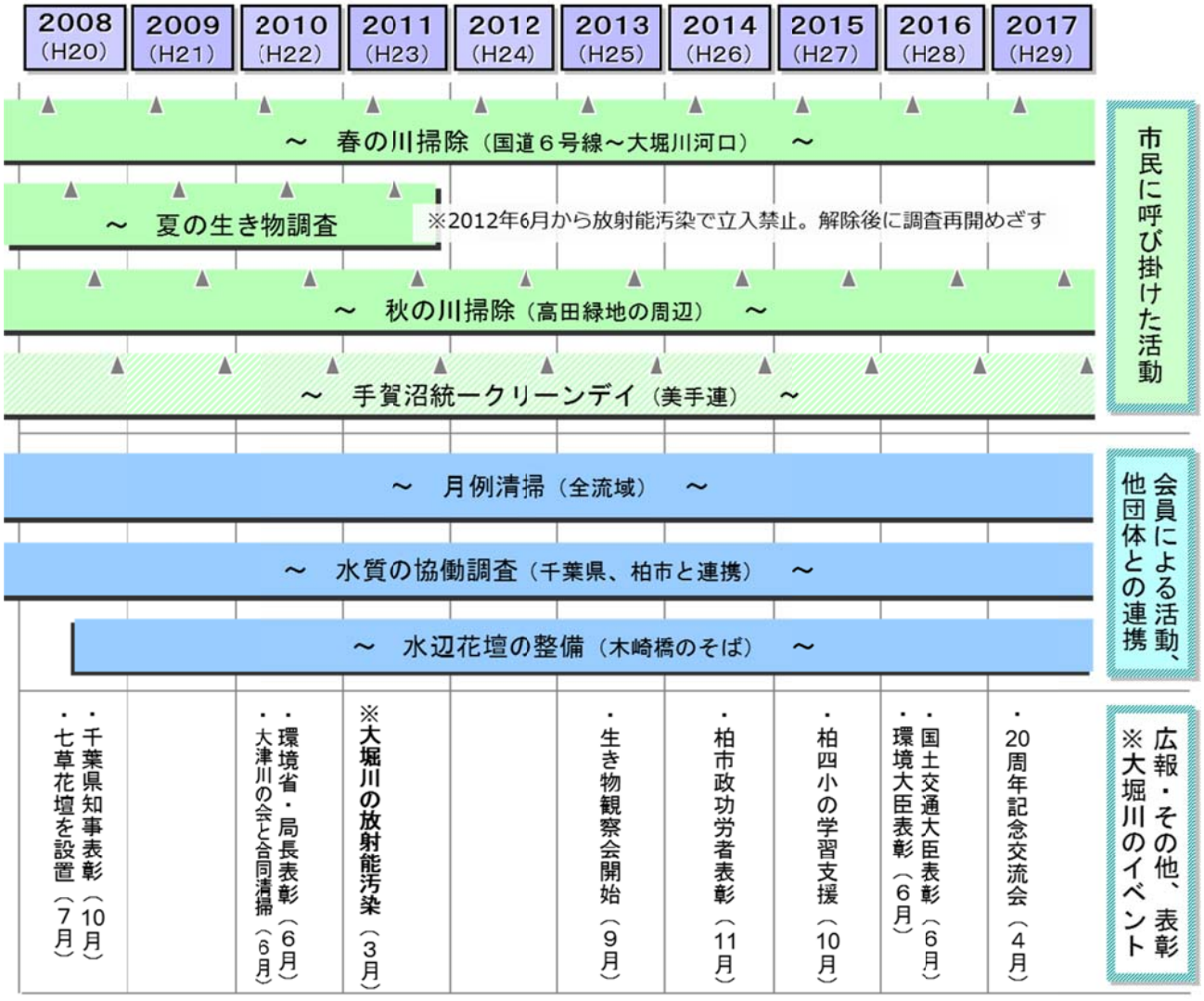
市内の小中学校等の自然学習・地域学習の支援や、「柏市民活動フェスタ」等イベントで大堀川の魚たちを交えたパネル展示での当会の活動、川の美化等を紹介してきました。

また、国道６号線周辺の遊歩道の整備計画を提案し、２００７年の大堀川リバーサイドパーク全面開通に寄与しました。

当会の活動の詳細はインターネットの当会ホームページを通してご覧になれます。

検索　大堀川の水辺

http://ohorigawa.ciao.jp/



大堀川の水辺をきれいにする会の２０年間の活動の概略（２）

１．２　当会の誕生

この会は１９９７年（平成９年）３月に初めて清掃活動を行ったことが始まりですが、そのきっかけはその年の正月にありました。

発起人となる寺尾の家に他県の親戚一家が遊びに来て、たまたま手賀沼の話になりました。沼に入る辺りの川に３羽のカモが居着いているよということから、皆で見に行くことにしました。頭がきれいな緑色をした雄のカモをリーダーにいつも連れ添って泳いでいるのです。両岸にまたがる広々としたふるさと公園と合わせて、地元で自慢のできる場所と思って出かけました。

当時の人気者の３羽のカモ（1997.3）

しかし、出迎えてくれたのは３羽のカモだけではありませんでした。よどんだ水面から頭を出した自転車のハンドルや車輪、投げ捨てられたビニール袋、漂っている飲み物容器・・・。甥っ子、姪っ子が「なるほど、手賀沼は汚い。確かに日本一汚い」と大声ではしゃぐ始末でした。

公園前のゴミ　　**北柏橋のバイク**

これはどうなっているのかと休み明けに市役所に電話で聞いてみました。すると大堀川の管理は千葉県の仕事で、市は関係しないという返事です。ではと探し回って見つけた県の担当部署に聞くと、護岸の安全や洪水対策が主な仕事で、住民が捨てたゴミの清掃などは県の管理業務にありませんと言う。それでは、この見苦しいゴミはどこも手を付けないのかと驚きました。

丁度、町会の新年会があったのでこの話をすると、山歩きをしている人が、尾瀬沼などでは登山団体の呼びかけで清掃活動があり、自分も参加したという話をしてくれました。

なるほど、らちの明かない行政に頼らずに、市民の協力でゴミの除去はできるかもしれない。しかし、一人ではどうにもならず、どこか応援してくれる団体はないものかと考えていたところ、北柏の駅近くで「市民ネットワーク・かしわ」の看板を見つけて飛び込み、運営委員会で構想を説明すると快く後援をしてくれることになりました。一方、計画する中核メンバーを集めようと川沿いの土手に立て看板を立て、呼びかけ文と連絡先を表示したところ、早速７名の方から参加の連絡をいただきました。

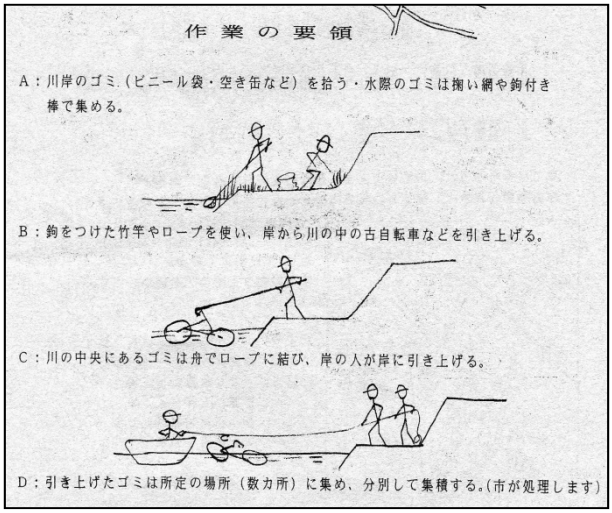
十分な手応えを感じて、市役所の環境関係の部署と千葉県の土木事務所に、およその計画を説明して了解を得た上、実施に向けた第１回準備会を２月１６日（日）、市民ネットの事務所を借りて開きました。８名の参加者で検討事項：作業日時・作業範囲・作業方法・役所等連絡先・道具作り・呼びかけ・広報・ご苦労会・駐車場・班編成等を逐一審議決定し、現地の確認も行いました。

こうして合意された計画に基づき、３月２３日（日）の実施日に向けた個々の準備に走り出しました。市の広報紙へ掲載依頼をすると共に、建設省北千葉導水路出張所、千葉県東葛飾土木事務所へ実施内容を説明。道具の確保に地域にある松村組機材センターや矢内建設工業を尋ね、ロープやシートの借用、古ベニヤの提供等

の協力をいただきました。また、使用した工場用水を浄化後大堀川に排出している地元の食品工場：アサヒ飲料と伊藤ハムに、作業の後のご苦労会に製品の提供をお願いしたところ、快く了承され感激したものです。これら週日の交渉には、退職している寺尾と専業主婦２名が当たり成果を得ました。

一方、川の中に捨てられた自転車や淀みに浮かぶビニール袋などを、岸から安全に取り去る工夫が必要でした。町中で見かけた竹薮の持ち主を訪ねて採取の了解を取り、休日に皆で手頃な太さで長さのある竹を２０本ほど切り出して枝を払い、大堀川の岸辺に運びました。移送には矢内建設工業の社長さんが、直々に大きなトラックを運転してくれて大助かりでした。そこで竹竿の先端にホームセンターで見つけた鉤（かぎ）型の金物を取り付けました。この竹竿で離れたゴミを引き寄せ、あるいは鉤のついたロープの先端を自転車などに届かせようと考えたのです。

しかし、岸から離れたゴミも多く、何とか舟が借りられないかと思いました。川の岸に釣り用と思われる小舟が繋がれており、釣り人に尋ね回って持ち主を見つけて交渉したところ、当日自分で船を出してくれることになりました。



案内チラシの裏に描いた「作業の要領」（掬い網、鉤付き棒、舟とロープなど

計画の中身が固まったところで、作業の参加者を募集するチラシを作成・印刷し、市役所の関係部署・新聞社・学校・近隣の住戸等に配布しました。また、ふるさと公園など人の集まる場所に立て札を立て、雨に濡れない工夫をして持ち去れるように配置したところ、日に日に枚数が減って関心が寄せられているのが分かりました。

いよいよ作業日１週間前の日曜日、総勢９人の同志が集まり第２回目の準備会を開いて、最後の打ち合わせをしました。道具を含め準備したことを皆に説明した上、進行手順・タイムスケジュール・本部要員と作業班リーダーの割り振り・作業の注意点・ゴミの集積場所・ご苦労さん会などを確認しました。

こうして迎えた作業日当日は、朝の内小雨がちらつく生憎の天気でしたが、集合場所には続々と人が集まり、開始予定時には７６名を数

バイクの引き上げ（1997.3）

川辺からの自転車の引き上げ（1997.3）

えました。６班に分かれての作業は順調に進みましたが、予想以上にきついところもありました。長い竹竿と松村組から借用した太いロープは水中の自転車などの引き上げに威力を発揮し、次々と大きな獲物を捕らえましたが、半分泥に埋もれているものやスクーターなどの大物を高い岸に上げるのは、若者数人の力が必要でした。参加された柏日体高校の先生・生徒十数名が各所で見事な活躍をしてくれました。

ふるさと公園前の広い水面には、小舟が出動して乗り込んだ参加者の手で離れた浅瀬に打ち上げられた漂流物が取り除かれました。

こうして２時間の作業の末、引き上げた自転車４４台、オートバイ・スクーター数台、古タイヤ数本、拾われたゴミを入れた袋多数という戦果でした。ゴミ袋や自転車などはごみ収集車が近寄れる道路脇数箇所に集めて作業を終えました。

泥の中から引き上げた自転車（1997.3）

参加者は見違えるほどきれいになった水辺を見ながら柏ふるさと公園に集まり、そこのあずまやでご苦労さん会を開きました。ビールとおむすびは有料でしたが、地元食品会社から寄贈されたお茶やハムは無償で皆さんにふるまわれて喜ばれました。疲れたが一仕事やり遂げた爽快感があるねとの評判でした。天気は何とか持ち直し、ゴミの無くなった広い水面を３羽のカモが悠々と泳いでいたのが印象的でした。

この件は、翌日の朝日新聞千葉版に「市民７０名が大堀川清掃」として写真入りで大きく報じられたものです。

４月１３日（日）に「大堀川ゴミ除去作戦を楽しく振り返る会」を開催した折り、撮影されたビデオを見ながら「また来年もやろうよ」という声が揚がり、この会が発足した次第です。

～／～／～／～／～／～／～／～／～／～

朝日新聞千葉版で採り上げられた

朝日新聞

33 千葉 1997年(平成9年)3月24日 月曜日

市民70人が大堀川清掃

柏「汚れた川は恥だ」

大堀川からは大型ゴミが次々引き上げられた＝柏市柏下で

「汚れた川は市民の恥だ」「論より実行」と二十三日、柏市民約七十人が手賀沼に注ぐ大堀川の清掃作業に立ち上がった。投げ込まれていた自転車の多さに、若者たちは「どうして」とため息をもらした。

清掃作業に取り組んだのは、市民の有志でつくる発足したばかりの「大堀川のゴミをきれいにする会」。呼びかけをした寺尾直宏さんは「川で泳ぐカモを見ているうち、川のあまりの汚さに腹が立ってきた」という。地域の新聞や市の広報に「ゴミの除去作業をします」と載せてもらい、高校にも協力を呼びかけた。

初めての行動日の二十三日は小雨だったが、約七十人が集まった。寺尾さんの呼びかけには多くの企業も賛同。作業用具を提供し、飲み物や食品を寄せた。市役所はゴミ袋と収集車、建設省の出先機関は軍手を出した。

作業は思ったより重労働だった。泥に沈んだ自転車の引き上げには、若者五、六人の力が必要だった。十余人が参加した柏日体高校の生徒は「これだけ汚されると、川とは呼べないですね」と、改めてびっくり。主婦も「大堀川の橋や土手は通行人も多く、汚れたままの放置は恥ずかしい」と話した。

第１回の大堀川清掃（1997.3）

（寺尾・木村記）

１．３　市民参加の大掃除

（１）ゴミ除去大作戦から

当会は１９９７年発足以来、毎年春先（3月頃）に一般市民にも広く声掛けして、大堀川の大掃除を実施してきました。

初の大掃除は「大堀川のゴミ除去大作戦」として７６名の方に参加頂きました。（前節参照）その翌年からは「春の大堀川クリーン大作戦」と名称を変更し、２００３年からは「春の大掃除」として現在まで継続してきました。

当初は年に１～2回であった清掃活動も、会員数の増加に伴い増えてきて、２００５年からは会員内で世話役を決めてほぼ毎月実施すること（月例清掃）も行っています。

２００１年からは「秋の大掃除」も実施するようになり、広く呼び掛ける活動が年に２回になりました。参加者数の推移については、別頁の「2．１　参加者数の推移」をご参照下さい。毎月実施する月例清掃も一般市民の参加はもちろん自由ですが、春秋については数百部のチラシを配布して、広く呼び掛けています。この活動を現在まで継続できたことには、協賛頂いた企業様の存在があったからこそと考えています。現在まで、継続してご支援いただいている企業様に心より御礼を申し上げます。

出来るだけ多くの方に参加頂き、印象深いイベントとしたいとの考えから、当初よりご苦労さん会を実施して好評を博したことから、その後も定番として定着することとなりました。

２００３年からは毎年末に実施されている美手連（美しい手賀沼を愛する市民の連合会）主催の「手賀沼統一クリーンデイ」にも参加することとなりました。当会は柏地区を担当することとなり、春秋の大掃除と同様に一般市民に呼び掛ける活動になりました。

２００７年からは手賀沼統一クリーンデイでもご苦労さん会を実施することとなりました。

ご苦労さん会の様子　(2007.12)

「これが楽しみで・・」という声を聞くことを嬉しく思います。２０１０年の秋の大掃除には、前年に市長に就いた秋山浩保市長も参加され、胴長を着用しての川掃除も体験頂き、当会の活動に対して理解を示して頂きました。

胴長で奮闘する秋山市長（2010.11）

（２）初の試み

前記の春・秋の大掃除や手賀沼統一クリーンデイ以外に市民の皆様の協力を頂いて実施したイベントが一度だけありました。

それが２０１２年２月に実施した「高田緑地対岸の水辺階段の土砂除去」でした。高田緑地側の水辺階段は、水辺まで楽に降りていくことが出来て、水に親しむことが出来るのですが、対岸の水辺階段は、いつの頃からか下段には土砂が堆積し、夏には堆積した土砂にオオブタクサなどが繁茂しうっそうとした状況になって

いました。
　対岸側に柏厚生病院が移転してきてから、こちら側の土手道を利用する人が増えてきたこともあり、会員の誰からともなく土砂除去作戦の待望論が出てきました。

土砂除去前の様子

　ただ、土砂量は大量であり、通常の月例清掃で集まる会員だけでは、人数的にも体力的にも到底不可能であると考えられたため、予め近隣の団体に実施目的を説明して協力をお願いしました。また、近くに会社がある千葉建設工業㈱様と高田近隣センターからは、作業に使うスコップ、つるはし、バケツ、一輪車等をお借りすることとしました。

人海戦術の土砂除去

　草木が枯れている冬季に実施することとして実行日と設定した 2月１２日（日）は、快晴に恵まれ、近隣４団体からの参加も含めて総勢４８名が集まり、約２時間強をかけて、人海戦術で階段部分の土砂を両側に除去することが出来、所期の目的を達成出来ました。

土砂除去完了

（４）創立１５周年イベントへ

　２０１２年度は、当会の創立１５周年に当たります。実は、高田緑地の水辺階段の土砂除去の話が出てきた頃から、１５周年の記念イベントは「水辺のコンサート」が良いのではという意見が出ていましたが、土砂除去が概ね完了したことで、この意見も現実味を帯びてきました。
　１５周年記念イベントとしては、千葉県環境財団の助成金を利用して、Ａ５版の当会パンフレット 1,500 部を作成することと秋の大掃除の実施時期に併せてコンサートを行うことが決まり、詳細内容が担当者に託されました。
　コンサート内容としては、様々な意見が出されましたが、秋の大掃除の開催予定場所である高田緑地にも近い柏市立柏第五中学校の吹奏楽部と本拠地を柏市に置く和太鼓集団の呼魂太鼓（こだまだいこ）が最有力となり、出演交渉を開始しました。
　柏第五中学吹奏楽部は、千葉県吹奏楽コンクールで常に上位であり、この年も金賞を受賞して本選出場を果たしているチームですが、校長先生、顧問の先生ともども快くコンサートへの参加を引き受けて下さいました。
　更には「街の宝物　大堀川」とのテーマにて

の絵画制作についても、柏第五中の生徒さんにお任せすることとなりました。

呼魂太鼓は、海外にも活躍の場を広げており、柏まつりでもサンサン通りでの楽曲披露は注目の的となっている集団です。たまたま、当会の会員が太鼓のたたき手と同一町内に住むという縁で、宗家を紹介して頂き、本コンサートの趣旨を説明したところ、ご理解いただき、ボランティア参加を快諾して頂きました。

（４）創立１５周年記念イベント当日

２０１２年１０月２７日（土）は、朝から願っても無い好天に恵まれました。もしも、この日が雨天等で中止となった場合には、柏第五中も呼魂太鼓の皆さんも予備日の確保が出来ない状態の一発勝負であったため、本当に胸をなでおろしました。

恒例行事である「秋の大掃除」と記念行事である「水辺のコンサート」を併せて開催することとなったため、担当者はそれぞれ自身の役割区分を理解した対応が求められました。

大掃除は通常の開始時間よりも３０分前倒しして午前９時より開始されました。

事前の宣伝活動が奏功したのか、過去最大となる２６７名の方々に参加頂きました。

楽器の運搬

挨拶、清掃内容説明、ラジオ体操を終えて、事前に配員された６班に分かれて、当会の班長、胴長班と共にそれぞれの持ち場に移動しての川掃除が始まりました。

水辺の絵画展「街の宝物　大堀川」

記念行事担当者たちは、会場準備、水辺の絵画展の掲示、呼魂太鼓からの太鼓受入れおよび配置、柏五中に赴いての楽器運搬、軽食(おにぎり)および飲料水準備等の役割を順番にこなして行きます。

午前１１時前には、清掃作業を終えた皆さんが会場に戻り、おにぎり、お茶、１５周年記念パンフレットの配布も終わり、「水辺のコンサート」が始まることとなりました。

まず、秋山市長にご挨拶いただきました。市長には、当会活動をご理解頂き、前年度時点で当イベントへの参加を確約下さいました。

記念パンフレット

コンサート皮切りは柏第五中の吹奏楽です。顧問の先生の挨拶の後、４５分間にわたって４３名の奏者による「金賞」の演奏を楽しむことが出来ました。

最後の曲目「March bou-shu（房州行進曲）」

演奏の直前には、呼魂太鼓の数名が小太鼓を腰に柏第五中の後ろに揃ってのコラボレーションが始まりました。この時には会場から大きな歓声が上がりました。

その後、大きな太鼓が整然と運び込まれて、演目に応じたフォーメーションで身体に響く演奏を体感することが出来ました。

演目の最後となる７番目は観客も参加出来る「紅竜囃子（こうりゅうばやし）」でした。

宗家の奏でる横笛の軽快なリズムと掛け声による「三本締め」で爽やかな秋空の会場がひとつになることが出来ました。

吹奏楽と和太鼓のコラボレーション

リズミカルな太鼓演奏

コンサートの内容については、本誌「１．８広報・啓発活動」にも記載がありますので、併せてご一覧下さい。

コンサートが終了した午前１２時半からは、恒例のビンゴ大会が始まりました。記念イベントとのこともあり、通常の秋の大掃除の時より多くの地産野菜を準備したので、沢山の方々に喜んでいただくことが出来ました。午後１時半過ぎには、景品も底をつき、春の大掃除での再会を約して散会となりました。

地産野菜が景品のビンゴ大会

（５）市民参加の大掃除終了後の恒例行事

毎回、大掃除終了後は会場撤収後、資機材を整理収納するため、当会の資材置き場である大堀川河畔の風車小屋に集まります。資機材を洗浄後、それらが乾燥するまでに行われる恒例行事が「反省会」です。ご苦労さん会で余った食材、飲料と世話役の判断で買い足した（アルコール）飲料を前にして車座になって反省会が始まります。次回以降の参考となる建設的な意見が出ることもあり、忌憚のない意見交換がなされて次に繋げていきます。

意見交換を行う「反省会」（2012.10）

（深津記）

１．４　大堀川と流域の生き物しらべ

（１）大堀川の水生生物

ａ）子供たちとの大堀川の生き物調査

川があれば誰でもどんな魚がいるんだろうかと覗きたくなりますよね。最初は興味のある会員で大堀川のあちこちを調べていましたが、２００１年から７月の夏休み時期に子供たちと一緒に行う大堀川生き物調査と称するイベントを始め、以来ずっと毎年続けてきました。

開催場所は柏市北部から流れ下ってくる地金堀（これも大堀川の一つです）が大堀川本流と合流するところにある子供にも安全な浅瀬で、毎回ここを使ってきました。

まず会員が本流の上流側と下流側の二手に分かれ、それぞれに川幅いっぱいもある大きな網を引きながら水面を竿で叩いて魚を地金堀側の浅瀬に追い込みます。少しでも多くの魚が捕れるようにと、この網の構造や追い込みの陣形等には前年までの経験を生かして毎回のように改良を重ねて来ました。

会員総出で魚の追い込み（2009. 7）

浅瀬に追い込まれた魚を子供たちは歓声を上げて追いかけ「たも網」などを使ってすくい取ります。初めはおっかなびっくり及び腰の子も一度魚が網に入ると俄然勢いが付き、びしょ濡れも構わず追い回します。付き添いの父兄もいつの間にかもう夢中です。どちらかと言えば女の子の方が度胸があるのでしょうか、大きなコイを素手で抱きかかえる子もいました。

魚捕りが一段落したら魚を観察用の水槽に入れてアドバイザーの先生から名前や特徴、生態などを教えてもらいます。先生の都合がつかない時は、会員有志が魚の勉強をして危なっかしい代役を務めることもありました。

俺これ知ってる！　こいつ面白い顔してるな！・・・と声が上がります。身近な都会の川に思ったよりずっといろいろな生き物がいると知って喜びも大きいようです。小さい子供の魚も確認されるので大堀川にも子育てできる環境が備わって来ているようだと先生から教わって、清掃に励んできた我々会員も嬉しい気持ちになりました。

この調査で確認された水生生物は、魚が１４種、その他の生物が９種に及びます。

子供達にとっては、安全に川と魚に戯れ最後にそっと川に帰してあげることで生き物との共生を感じる貴重な機会になっていることでしょう。会員にとっても魚の追い込みなどに張り切る爽快なひと時です。

子供たちの魚捕り風景　（2007. 7）

しかし２０１１年３月東北地方太平洋沖地震に伴い発生した原発事故の影響を受けて柏市内は広く放射能に汚染され、特に大堀川の河川敷には雨水に運ばれた放射能を含むチリが堆積したことで線量が安全基準を超えることが明らかになり、子供たちへの影響を考えて２０１２年から調査イベントを中止しました。そ

の後開催地点の河川敷の状況を市のデータや会員自身の測定でフォローしてきましたが、まだ基準を下回らない所があるため中止したままです。毎年７月が来ても子供たちのはしゃぎ声が聞こえない合流地点に立つと原発事故の影響の大きさが身に沁みますが、最近は線量レベルが大分下がってきており、再開の時が近づいたかなと期待もしています。

ｂ）柏市自然環境調査に伴う生き物調査

２０１６年から柏市の自然環境調査が始まりその中に水生生物も加わったのを機会に、自然調査の主体となる柏自然ウォッチャーズという団体と当会が協働して大堀川の水生生物調査を始めました。

調査方法はたも網、さで網で岸辺のガサガサ、もんどり（餌を入れた魚捕り網）仕掛け、更に竿釣りなどまで駆使して魚や底生生物を捕らえ、柏環境ステーションのアドバイザーなどにも指導してもらいながら同定をしています。

ウォッチャーズと協働で水生生物調査

６月から下流の地金堀合流点、中流の高田緑地前、上流に近い青葉橋下の３地点で順に調査を始め、本節（ａ）で述べた子供たちとの生き物調査で分かった魚の多くが再確認され、ウキゴリやシナヌマエビなど新たなものも見つかっています。一方でモツゴなど以前に比べてとても少なくなった魚種もあり、川の中にも変化が起こっていると感じられます。

調査をしていると通りすがりの方に何が居るんですかとよく聞かれます。興味のある方是非ご一緒に魚捕りは如何でしょうか。

ｃ）大堀川に生息する水生生物の一覧

以上のこれまでの二つの調査で判明した大堀川に生息する生き物は下記の通りです。

魚類	生物名
コイ科	コイ、ゲンゴロウブナ、ギンブナ、ワタカ、タイリクバラタナゴ、ハス、オイカワ、モツゴ、ビワヒガイ、タモロコ、ツチフキ、ウグイ、ムツギク、スゴモロコ、以上１４種
サケ科	サケ　１種
メダカ科	ミナミメダカ　１種
ハゼ科	ウキゴリ、クロダハゼ（旧名トウヨシノボリ）、ヌマチチブ、 以上３種
ドジョウ科	ドジョウ　１種
その他の水生動物	スジエビ、テナガエビ、シナヌマエビ、各種トンボのヤゴ、ミズカマキリ、サカマキガイ、アメンボ、ウシガエル等のオタマジャクシ、アメリカザリガニ、ミシシッピーアカミミガメ 等など

おとぼけ顔の代表、クロダハゼ類

見事な婚姻色をしたオイカワ♂

（２）大堀川流域（陸上）の生き物観察会

当会員の中に柏市域の緑地の生き物の観察と保全活動をしている柏自然ウォッチャーズに入っている者がおり、その縁で同団体の協力を得て２０１０年に市民活動フェスタの協賛イベントとして大堀川流域の陸の生き物観察会を開催しました。子供たちも参加できるイベントとして２０１５年まで続けていますが、市民の皆さんに大堀川周辺の緑地のよさを知ってもらうよい機会と考えています。

観察会の場所は大堀川流域の代表的な緑地である松ヶ崎城跡、篠籠田市民緑地、高田みどりの広場等から選んだ１、２カ所と大堀川沿い遊歩道を組み合わせたコースです。いずれも昔は流域に連なる森林地帯で、大堀川の水を育みかつその水の恩恵も受けて来た処で、現在は住宅地の中で貴重な憩いの場を形成しています。

観察会の準備には大堀川の大掃除イベントで培った経験が大いに生かされていて、観察のコース図入りのチラシから観察地の主な植物と動物の一覧図に虫取り網などの道具を揃え、説明役や参加者の安全のための見張り番まで決め、トイレ借用の手配も怠りありません。

松ヶ崎城跡での生き物観察会

参加者は説明役の後に付いて話を聞いたり、思い思いに自分で生き物を探し回り先生に訊ねたりします。ウォッチャーズの説明役は名前や形の特徴、生態と周りの環境との関係などを説明します。この花きれい！ 怖そうな虫がいるぞ！との子供たちの声にも親切に応えます。地域の自然を大切に思っている方が多く、熱心に耳を傾けてくれます。男の子は大体が植物より木の幹や地上を動く虫が好きで夢中で追い掛け回す子も沢山いますが、難しい虫がいると先生役に図鑑との奮闘を強いていました。

内野の森で夢中で虫を追いかける子供達

大堀川の土手には貴重種に類する生き物はあまりありませんが、秋にはヤマグワやカジイチゴなどが沢山の実をつけ、参加者で美味しく頬張りました。これも観察会の楽しみです。

大堀川の土手でカジイチゴの実を味わう

高田みどりの広場では千葉県でもここにしかないと言われる貴重なマイヅルテンナンショウを観察しましたが、ヘビの鎌首みたいな奇妙な姿に子供たちは腰が引けているようでした。観察中に突然１メートル以上もあるアオダイショウが現れて参加者を驚かすこともありました。お父さんと一緒に調べた緑地の生物を

写真帳にして参加者に報告してくれた小学４年生の女の子もいました。

大堀川を泳ぎ渡るアオダイショウ

篠籠田市民緑地のキンラン

緑地は生物相が豊かで生き物同士や生き物と人とのつながりの一端を知ることが出来たようですし、林の中は空気がひんやり・すっきりして暑さを和らげ心を癒してくれて、残された林の大切さを実感しました。

何と言っても幼い子供たちの笑顔が最高です、これからもずっと続けたいと思っています。

（３）その他、大堀川の水生生物の話題

ａ）サケのこと

本来大堀川には居なかったサケが２００６年頃以降毎年手賀沼から遡上するようになりました。利根川の水を導水して大堀川にも流しているのでその臭いに魅かれて来るようですが、産卵のための川底の砂利がなく、生まれてもコイに食べられる等で孵化することはできないようです。見守るしかありませんが、川への関心が高まったのは良かったことでした。

松ヶ崎橋下流のサケ（2009.11）

ｂ）水草のこと

沈水性植物（体の大部分が水の中にある水草）は幼魚の揺りかごとも言われ、魚が豊かに育つ大切な処です。大堀川にはこの仲間でエビモとオオカナダモが上流域に生育していますが、高田緑地より下流域には見られません。下流に行く程シルトと呼ばれる微細な泥が川底に厚く堆積しており、これも水草の生育を阻害している一因ではと推測されます。舗装面に積もったチリが全て雨で流れ込む都会の川の宿命でもあるようで、中々難しい問題です。

抽水性植物（体の一部を大気中に伸ばす水草）はアシ、ガマ等大堀川の岸辺にも色々なものが生えていますが、最近各地で成長力の大変強い外来種が急激に勢力を伸ばし、他の生物を駆逐するだけでなく排水ポンプを詰まらせるなど実害も生じています。大堀川でもふるさと大橋付近でナガエツルノゲイトウというのが猛威を振るい始めており、当会も関係団体と一緒に退治に乗り出そうかと検討しています。

北柏ふるさと公園前に繁茂する
ナガエツルノゲイトウ（2016.5）

（青木記）

１．５　会員主体の毎月の川掃除

市民に対しして広く参加を呼び掛ける、春・秋の大掃除、手賀沼統一クリーンデイ以外の月には会員主体の月例清掃を実施しています。

日程および清掃箇所は、予め定められた世話役２名により立案されます。

特に清掃場所については、世話役となる会員それぞれの日々の行動範囲であるとか、河川の汚れに対する捉え方等の個性がでる様で、興味深いものがあります。

実施予定の前々月に開催される月例会にて、会員に対して参加の可否を問い、修正された中でその内容が決定されます。

夏季には柏市社会福祉協議会で推奨している「夏ボラ（夏休みのボランティア活動）」を受け入れることもあり、参加希望者に当会の日程を伝えて調整することもあります。詳しい記録は残っていませんが、活動記録での参加者内訳で追えば、２００７年８月の清掃に３名の高校生が参加したことが最初の様です。その後は、今日まで毎年受け入れています。

本事例も含めてこの１０年間の月例清掃事例のいくつか紹介します。

（１）２００７年の８月清掃

日　時：８月 20 日（月）9:30～10:30
場　所：松ヶ崎橋～１６号線陸橋間
参加者：１５名（ボランティア３名含む）

猛暑の中の清掃状況

連日の３０度を越す猛暑にもかかわらず、集合時間前には当会メンバーも、女子高校生３名も集まって、皆さん、直ぐにも開始したい意気込み。

予定時間の９時半に、参加者紹介とゴミ拾いの要領を説明し、熱中症に配慮し１０時半終了とすることで作業開始。たまたま、草刈りのされていた左岸と川の中のゴミ拾いが中心。背丈以上に生い茂った右岸は、とても手におえない状況。

女子高校生は、ゴミ袋と火バサミを持って左岸に挑戦してくれました。川の中は、胴長班がいつものように川底の大掃除。岸辺や川の中からお嬢さんたちを気遣ってか、そこにゴミがあるよ！！ 溝に気をつけて！！など等と会員のいつに無く元気な声が飛び交っていました。

終了後には、桜の木の木陰で車座になり、ジュースを飲みながら、初参加の高校生の感想を話してもらいました。

- こんなにゴミがあるとは思いませんでした、驚きました。
- みんなが注意してゴミを出さないようにしていかないといけないですね。
- これからもこのような行事には参加してみたい。

などの言葉をもらいました。

我が会の参加メンバーは、若い皆さんを迎え、猛暑も忘れてハッスルした一時となりました。今後も地域の方の参加に期待しましょう。

（２）２０１１年の１月清掃

日　時：１月 23 日（日）10:00～12:00
場　所：昭和橋～初音橋～松ヶ崎橋間
参加者：１５名

当初予定の１６日は朝方まで小雪が降っての２３日への延期でしたが、当日は気温が１０度以下とやや寒かったものの晴天で作業中は汗ばむほどでした。

今年初めての月例清掃に１５名もの方に参加頂きました。中でも、昨日の月例会・新年会で登場した新会員さんにも早速参加頂き、腰がやや痛いと云いながらも大奮闘でした。

皆様の意気込みが感じられて、月例清掃としては本当にすばらしいスタートを切りました。

沢山の参加者を得ましたので、当初予定の昭和橋～初音橋のほかに掃除場所を増やして、初音橋～松ヶ崎橋までも掃除することが出来ました。

見た目では余りゴミが無い様に見えましたが、実際には結構な量でした。１６号沿いの初音橋袂には取りきれないゴミが残ったようです。今回は、水深が浅く川底がかなり露な状態だったのが、普段に無い特徴でした。お陰さまで、幸か不幸かいつもは見えない大物も結構拾い上げました。水深とは無関係とも思えますが、重い毛布、じゅうたんの運び上げが大変でした。陸上班としては、洗濯機（外国製）、草刈りされていない右岸の小物ゴミに苦労しました。

胴長班の活躍

皆様のご協力により、時間内で終了し、集合写真を撮って、散会致しました。

（３）２０１２年、大津川の会との合同清掃

同好の士である「大津川をきれいにする会」との交流イベントを２０１０年から開催しており、この年は当会が大津川へ遠征しました。

日　時：６月１７日（日）9:30～12:20
場　所：大津川の高柳橋（県道船取線）周辺
参加者：３９名
（大津川２６名、大堀川１３名）

昨夜来の雨が凡そ止んだものの最初は時折り霧雨となる中、大津川の会の皆さんの手際のよい準備のもと、３回目の合同清掃が開催されました。雨による増水もあって胴長班作業は無しで、岸辺を中心のゴミ拾い、草刈り等の作業がありました。

丁寧な分別作業

９時過ぎから「カシニワの森」（”柏”の”庭”が名前の由来）のソバにある大津川の道具置き場に人が集まり始めました。９時半から大津川の会の司会で、大津川・大堀川の両会の会長挨拶、清掃に関する説明、体操があり、9:45から３班に分かれて掃除となりました。１班は高柳橋の上流、２班は下流側、３班はカシニワの森の前の水路をそれぞれ清掃しました。

大津川の会の手際よさには前回も驚くことが多々ありましたが、収集ゴミをキレイに分別したり、土砂で汚れたビニールを川で洗ったり等、丁寧な後始末に感心しました。

大津川の会との盛大な合同懇親会

さて懇親会ですが、これまた美味しい手作りの品が多々懇親会場を賑わす中、「大津川の会の歌」の出来上がるに至った経緯について作詞者の中村前会長からの説明があり、みんなで合唱したりしました。詩の中には有り難いことに「大堀川」も入っていたのには誠に驚きました。

大津川の水辺を歩いての感想を少々：　数箇所ある橋の両側には、高柳小学校児童による水辺美化のポスターが掲示されていました。大きなカメものんびりとしていましたが、ここにはスッポンも居るらしいです。他方、残念ではありますが岸辺の土手が所々崩れていました。徐々に改修工事がなされつつあるようです。

（４）２０１３年の１１月清掃

日　時：11 月 12 日（火）9:30～11:30
場　所：天神前樋管上流の三面張り流域
参加者：10 名

一昨日”木枯らし１号”が吹いたとか。初冬を思わせる寒さの中、高田上集会所に集合し、現場へ直行しました。

作業段取りの打合せ

現地での作業で先ず驚いたのは鼻をつく悪臭で、ここが初めての会員には衝撃でした。足場も悪く、川幅約　１m、足場から水面まで約１．５mあり、水面下のヘドロに絡んだゴミは意外と多く、拾い上げにはかなりテクニックが必要でした。

途中倒れて枯れた大木が三面張りと道をふさいでいました。４～５人で取り上げ除去しましたが、この時、誰かが「掃除に来たのに、木の片付けに来たのか？大変なもんだ」とのボヤキ？も聞こえました。

なお、対岸の金網柵の中には、バイク１台含め、廃棄ごみが少々ありましたが、作業困難なため、またの機会にと今回はそのままにしておきました。参加された皆様お疲れ様でした。

悪臭との格闘

（５）２０１５年、青少年との４月清掃

青少年の団体からの要請を受けて、月例清掃活動で受け入れることもあります。今回は「子どもの問題なら、自分たち子ども自身で取組もう」と考えで設立された団体「フリー・ザ・チルドレン（以下 FTC）」と清掃しました。

日　時：４月２日（木）10:00～14:30
場　所：勝橋～高田橋
参加者：３７名
（FTC18 名、大堀川 19 名）

FTC は春休みイベントである手賀の丘少年の家で４泊５ 日の合宿「テイク・アクション・キャンプ・ジャパン　～自分にできることをみつけよう～」の中でボランティア活動の体験として、当会の月例清掃への参加でした。

この日は大快晴、折しも桜満開の歓迎を受けました。当会による高田緑地での設営が終わり、１０時には半世紀の世代ギャップのある若者たちが登場。川掃除の実施要領等の説明の後、１０時２０分頃から４班に分れて 作業がスタート。若者たちは班長に連れられ新緑の若草が気持ちの良い土手や水際でゴミ拾い、胴長の当

会のベテランは自転車等の大物や水につかった粗大含むゴミ拾いで、１１時半頃から高田緑地に三々五々帰還しました。

当会の活動内容の紹介

子ども達へのインタビューを交え、昼食をはさみ１２時４５分から「学習会」として我ら大堀川の会の活動を紹介しました。寺尾さんの熱のこもった「当会の発足経緯」、中野さんのこれまた昏々と語る「現在の活動内容」の説明に続き、子ども達の質問、感想を述べて貰いました。その語りぶりからは、将来、海外青年協力隊に参加するなど、頼もしい人に成長していくであろうことが期待できました。

半世紀近い世代ギャップを越えて桜の下で

（６）２０１６年の５月清掃

日　時：５月 29 日（日）9:00～10:30
場　所：木崎橋～呼塚橋

参加者：１４名

作業開始前、川に浮かんだペットボトルがどんどん遡上しているのを見て、川が逆流？と思いましたが、調査の結果“風の影響で遡上しているので、川は逆流していない”と解明できました。

今回の清掃場所の上流半分は、ご近所の方による草刈りがなされていましたが、刈られた草にゴミが隠れてしまい、中々ゴミが見えません。一方、刈られていない所は、背丈にまで生い茂り、アクセスが難しい状況。といった夏場のゴミ拾いの難しさに、皆さん苦労していました。

呼塚橋の袂（左岸）には、釣り客の廃棄物が集められており、今回の清掃で処分しました。

また、地金堀と大堀川の合流点から少し遡った所に大量の不法投棄が見られました。以前から気が付いていたメンバーがいたようですが、我々では対応しきれませんので、市に地図に示して情報提供し、収集依頼しました。ゴミゼロの日ということで、大堀川沿いでも、我々以外に多くの方々が環境美化に参加していました。

胴長班の活躍

当日の月例清掃に参加しなかったメンバーも事前作業されたとのこと、ご苦労様でした。

（深津記）

階段清掃： 水辺に親しむ階段美化にも取り組みました！

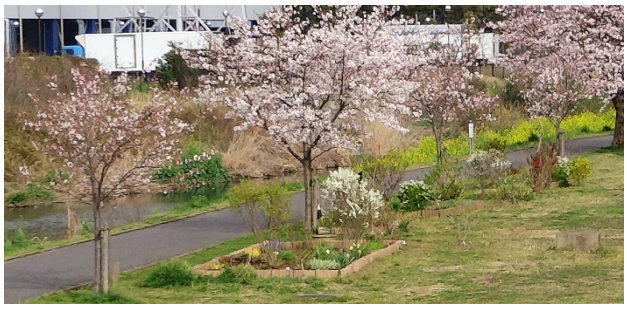
ジャングル化しているJR陸橋・北柏橋から柏ふるさと大橋の間にある１０ヶ所以上の階段について、初夏の頃、草刈り、こびりついた根っこ取り、土砂除去・ほうき掛け等をみんなで実施しています。　**（以下写真は 2015. 7 撮影）**

● 北柏橋・右岸袂の大階段の清掃

●その他：木々がはびこる階段の作業

１．６　水辺花壇の整備活動

大堀川リバーサイドパーク沿いの木崎橋そば（右岸下流側）、花好きな会員を中心に毎月の手入れにより、多くの皆さんが親しめる水辺花壇が楽しめます。



桜咲く頃、花壇の花たちはこれから

当会創立１０周年を機に記念植樹された桜若木５本に並び３つの花壇があります。

（１）桜若木５本の記念植樹とその成長
（２００７年３月）

大堀川リバーサイドパークが全面開通した２００７年3月１８日、遊歩道の桜並木に成長なすること念じ、桜若木５本を植樹しました。

桜若木の植樹を参加した会員

２週間後には５本とも見事に花をつけました。９年後には幹が太さ約２倍、花も数１０倍の花盛りに成長できました。（写真右上）

桜の成長：２００７年と２０１６年の花

（２）水辺花壇の造成作業（２００８年７月）

「日本ならではの春・秋の七草を皆さんに！」と熱意ある箕内さん（元会員）の呼掛けで、桜植樹の翌年、遊歩道沿いに花壇を造成しました。

整地・土壌作りと作業後の皆さん

雑草の根ごと除去、地面の耕作、花壇土や腐葉土の敷設などの開墾を行いました。１号花壇は２００８年７月、箕内さん仲間の野草の会の方々の整地作業の後、当会メンバーにより囲みブロック含めて完成しました。

２号花壇は２００９年３月、３号花壇は同年５月に、箕内さん多くの野草蓄財を反映させるべく追加造成しました。

（４）花壇のよこ顔

	下流側の２号花壇	中央の１号花壇	上流側の３号花壇
春			
秋			

（５）花壇を彩る花々　　（注）カッコ内の数字は撮影月

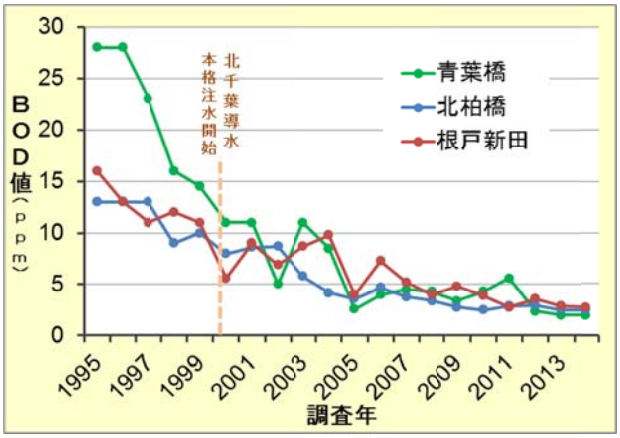
（堤田記）

１．７　水質調査活動

（１）大堀川の水質と当会の調査活動

大堀川は、柏の葉公園、流山市の数か所を源とする本流系と、こんぶくろ池及びその周辺から集まる小川を集め３面コンクリート張りの水路となる地金堀系とが、国道６号線付近で合流し、手賀沼に流入する一級河川です。

その水質は源流になる程高いＢＯＤでしたが、２００５年以降は低下し柏市が測定した３地点で環境基準値（BOD８ppm）以下となっています。



大堀川の水質推移（柏市環境白書より）

しかし、その源流に湧水は殆どなく家庭、企業排水であり、部分的に非常に汚染の目立つ所がありました。ごみ拾いする傍ら、水質に興味を抱き、２００２年から川の源流から河口に向かい水質調査を始めました。以来、千葉県、柏市とも連携した協働調査により、次のように発展・継続させています。

ⅰ）２００２年：当会独自の源流の水質調査

ⅱ）２００４～０６年：千葉県主催の千葉県協働調査で大堀川を担当（本流系と地金堀系）

ⅲ）２００７～１０年：柏市、柏市環境保全協議会と連携した源流２系の協働調査（天神前樋管に至る支流系、地金堀系）

ⅳ）２０１１年～継続中：つくばエキスプレス開通の大規模水路変更のため、本流系に絞った協働調査を継続（北千葉導水注水の新駒木橋周辺、地金堀合流地点の２ヶ所）

具体的な調査状況について、調査項目と調査の様子、源流系のⅲ）、本流系のⅳ）の調査結果などについて、以下に紹介します。

ａ）調査項目と調査の様子

＜調査項目＞　　調査地点ごとに１７項目を記録してきました。

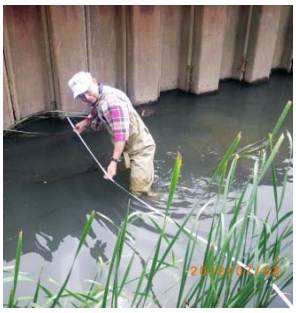
調査時刻	岸の状態	流量	透視度	電気伝導度	亜硝酸性窒素
気温	川底の状態	水の色	ｐＨ	ＣＯＤ	硝酸性窒素
水温	周辺の植生	水の臭い		アンモニア性窒素	リン酸性リン

＜調査の様子＞　　柏市、柏市環境保全協議会との協働作業で実施しています。

川沿いで調査

水質の調査（パックテスト）

透視度の調査



流量の調査

ｂ）源流系への水質調査：　２００７～１０年の取り組み内容です。

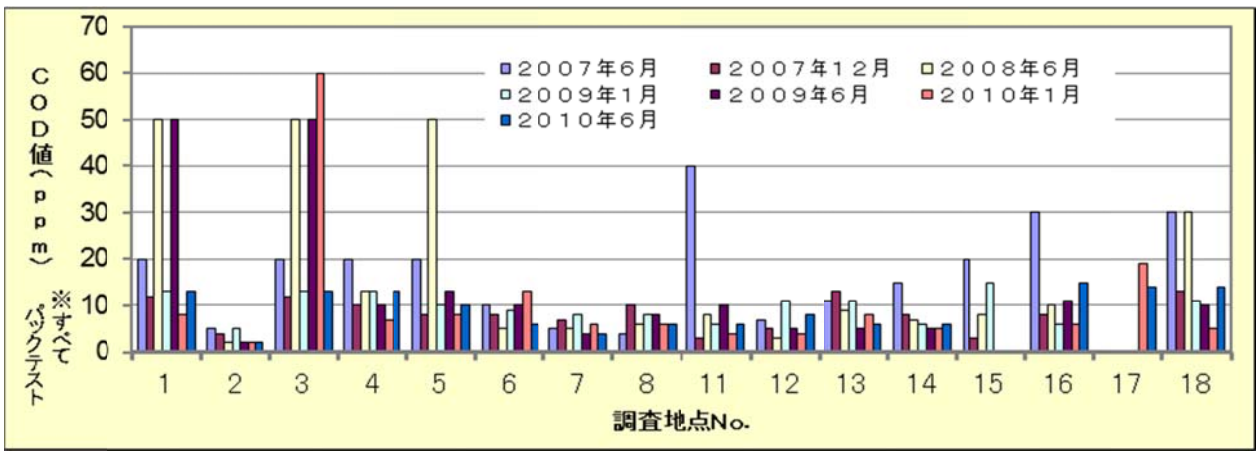
＜調査地点１＞　　大堀川に注ぐ天神前樋管と地金堀：２つの流域から１６ヶ所

①機械金属工業団地付近
②林の出口付近
③小川と調整池水路との合流点
④高田上集会所
⑤大堀川の直前

地図にない地点
⑥地金堀合流前
⑦地金堀出口
⑧地金堀合流後

⑪こんぶくろ池
⑫旧日立独身寮付近
⑬湿地東側の雑排水路
⑭上記2つの合流地点
⑮調整池出口
⑯公設市場北入口の東側水路
⑰公設市場北入口の水路
⑱靴卸店付近の3支流合流点

＜調査結果１＞

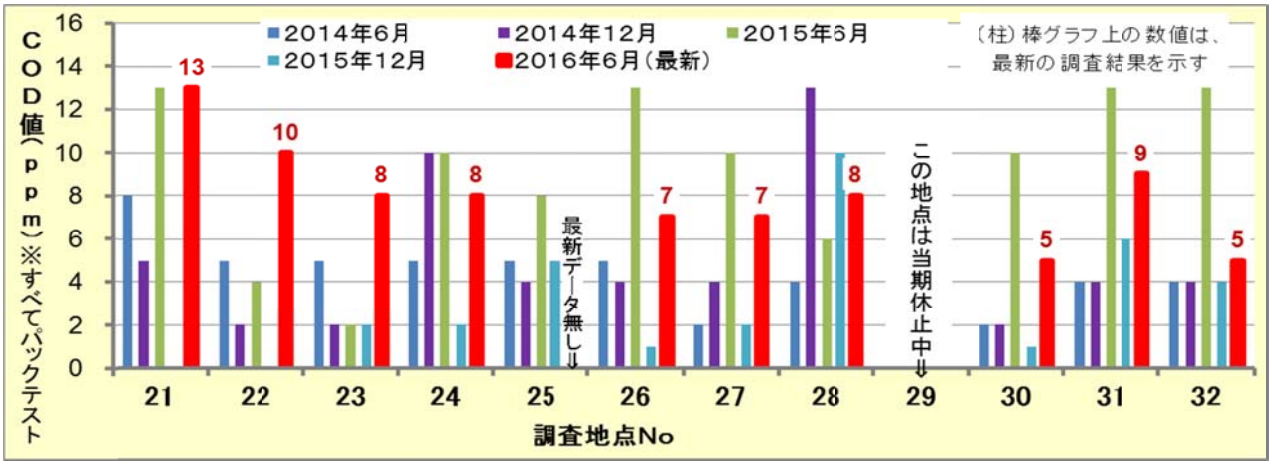


b）本流系への水質調査：　２０１１年から継続中の最新５回分の取り組み内容です。

＜調査地点２＞　　本流に沿った 12 ヶ所（地点 29 は現在調査を中止中）

21）北千葉導水注水前　24）天神前樋管　27）篠塚樋管　30）地金堀合流前
22）北千葉導水注水後　25）西前田樋管　28）篠籠田橋樋管　31）地金堀樋管
23）後上原樋管　26）高田緑地前　29）木崎台樋管　32）地金堀合流後

＜調査結果２＞　　各種の調査項目からＣＯＤ値について例示します。



c）調査結果のまとめ：　ＣＯＤ値について推察できること

＜本流系：調査結果２について＞

・ ＣＯＤ値は概ね１０ppm 以下です。
・ 調査地点により違いがあり、１０ppm 以上と高い地点がありました。
  - 北千葉導水の注水前の地点 21
  - 大堀川への流入水量の多い樋管の出口（地点 24:天神前、28:篠籠田橋、31:地金堀等の樋管）

＜源流系：調査結果１について＞

・ 天神前樋管の COD 値は概ね１０ppm 程度でした。　しかしながら、工業団地に近い上流部ほど高い傾向があり、５０ppm に至ったこともありました。
・ 地金堀では概ね１０ppm 以下でした。しかしながら、天神前樋管と異なり、住宅汚水を集めるためか下流部ほど高い傾向があります。
・ 両者の傾向の違いは、おそらく汚水源の発生場所の違いとも推測できます。

＜その他＞

・ 本流系、源流系の調査年は異なりますが、合流点あたりが１０ppm 以下と共通した数値であり、凡そ関連できた調査になったようです。

（加藤・堤田記）

１．８　広報・啓発活動

ご存知でしょうか。日本全国に「大堀川」という名前の川はいくつあるでしょう。

調べると 12 本の川があり、関東では、山梨県には３本あり、群馬県、埼玉県、千葉県、　西に行くと三重県、滋賀県、兵庫県、岡山県、それに海を渡って徳島県、愛媛県にそれぞれ１本ずつあります。

（１）当会のホームページ

大堀川で検索すると私達の大堀川の記事が最初に出て、その記事の数も断然、他を圧倒しているように見えます。ホームページの誕生は２００３年で、当会も軌道に乗り会員も増えた頃に、「できたら欲しい」という声が上がってスタートしました。その後現在に至るまで、何か行事をすると必ず、その文章と写真を管理者の堤田さんに提出し、すばやくホームページに掲載される体制が続いており、ＰＲ効果は絶大だと自負しています。

検索	大堀川の水辺

http://ohorigawa.ciao.jp/

（２）物言わぬ広報達

当会が始まってしばらくは、清掃の後、胴長などの使った道具は、各自家に持ち帰っていましたが大変でした。２０００年に、今私達が道具の収納に便利に使っている北柏橋下流の風車小屋を市役所から借りることができました。その後川の清掃のお役に立てたらというご厚意で戴いたアルミボートが小屋の側面にかかっています。「昔はあの風車が回っていたんですよ。」と散歩する方々に当会の名前と同時にこれを紹介しＰＲしています。

相前後してカワセミ印の当会の旗や帽子が誕生し、さらに、背中に大堀川と大きく書かれたチョッキができて、行事には不可欠の品々となっています。

小屋側面のアルミボート（2005. 2）

（３）川沿いの掲示板

川沿いを散策する人達に、無言で語りかけ、大堀川のことを良く知って貰おうと市役所と相談し、2005 年に高田緑地と風車小屋脇に掲示板２基が完成しました。

春夏秋冬を通じて清掃のご案内やカワセミをはじめ生き物たちの写真や子供達のポスターなど様々な活用がされています。この頃、川の遊歩道には桜並木ができ上り散歩される多くの方々が楽しまれると同時に、掲示板はゴミを少なくしきれいにと訴え続けています。

川沿いの掲示板（2005. 10）

（４）小学校の総合学習等への参加

大堀川沿いにも多くの学校があります。第四小学校、高田小学校、第七小学校、第五中学校、県立中央高校などの皆さんと相互に交流をもっています。

学校での授業の一環として大堀川の歴史や現状、住んでいる生き物についてのお話をし、また私達の清掃活動に参加して、川周辺を一緒にきれいにしてもらっています。子供達のためにも良い環境を残したいものです。

サケの遡上

学校との交流に２００６年に初めて遡上してきた鮭にまつわる話があります。

発見の小学生たちが取材を受け、テレビで報道されました。やがて新堤橋の下で産卵が始まり、終わると雄はすぐ離れていきますが、雌は体が白くボロボロになっても卵を一生懸命に側で見守ります。翌年、橋の下で学校の水槽で育てた稚魚の放流に私達も立ち合いましたが、つぶさに鮭の行動を見ていた男子小学生の読んだ作文が今でも心に残っています。

「僕は大きくなったら、鮭のお母さんのような大人になりたい。」

鮭と遡上到着地の新堤橋（2007.11）

（５）発表会や展示会

２０００年春の「21 世紀の柏を語る」と銘打った柏市のイベントで当会の小平さんが、大堀川を題材に河川の環境保全と親水利用を訴えたのを皮切りに、その後は県民プラザや柏環境ステーション等随所でお話をさせて頂いております。合わせて数々の催しに当会を広く知って貰うよう展示に参加しています。

イオンの環境コーナーや市民活動フェスタや柏祭りのダブルデッキ等々で川にいる生き物たちを入れた水槽は、多くの人に興味を持って見て貰っています。

（６）大堀川リバーサイドパークの全面開通への寄与

振り返ると以前には白い泡の浮くドブ川は市民からも相手にされずＣＯＤ値が５０を超えましたが、東大の西村先生の助言や北千葉導水事業を契機に大堀川の改修が進み、更にゴミに対する住民意識を変えようと１９９７年に当会が発足しました。多くの人達が毎日散歩をされるようにはなりましたが、大堀川の上流と下流がつながっておらず、分断されたままという懸案の事項が残っていました。

それは木崎橋と北柏橋の間 JR と国道６号線が川を横切る部分が未開通でした。

当会でも志茂さんを中心に検討が行われ、４案にまとめられ「大堀川遊歩道の延伸に伴う提案」として柏市役所に説明し、議論され着工の

国道６号線をくぐる遊歩道（2007.3）

運びとなりました。

遂に２００７年春、丁度１０周年記念の年に完成され、木崎橋の袂で開通式が行われました。

当会として、開通を機に、桜の若木を植え桜並木の整備をすると共に、川沿いに花壇を作り、四季折々の花々を道行く皆さんに楽しんで頂いています。(「１．６ 水辺花壇・・」参照)

遊歩道をつなぐ階段 (2007.3)

（７）１０周年記念事業

２００７年4月１５日、柏駅前の京北ホール６階、絵画「大堀川の四季」の額が飾られた大会場で「創立１０周年記念交流会」が行われました。

木村さんの開会挨拶の後、基調講演「これからの地域環境活動に臨むこと」(江戸川大学・恵教授)、当会の活動報告（青木さん）に引き続き、大津川をきれいにする会（中村さん)、柏市民活動センター（松清さん)、手賀沼にマシジミとガシャモクを復活する会（竹中さん)、さかいね 下田の森自然公園友の会（高橋さん）を加えパネルディスカッションが開催されました。

１０周年記念交流会 (2007.4)

ご出席の皆さんに当会全員で作った記念誌「よみがえれ 大堀川」が配られ、当会の誕生秘話・活動内容や川の歴史やつれづれ話に花が咲きました。

第 2 部は大勢お集まり頂いた方々と大堀川の会員が交じり合って懇親会が催され、皆さんのお話を伺いながらの終始和やかな交流会となりました。最後に当会の発起人である寺尾さんから閉会挨拶でお礼が述べられました。

（８）１５周年記念事業

１５周年記念イベントは２０１２年１０月２７日、大勢集まって頂いた秋の大清掃の高田緑地を舞台に繰り広げられました。幸い天気に恵まれいつもより早めに清掃を行った後、第五中学校の生徒さんの「街の宝物 大堀川」という35枚の絵が「この川をいつまでも残したい」「春夏秋冬の景色がとてもきれい」等々、描いた皆さんのコメントと共にあずまや周辺に展示されました。

その中でお集まりの２６７名の皆さんに秋山市長の温かい祝辞をいただきました。

いよいよ１１時から第五中学校の吹奏楽の演奏がスタートし、金賞受賞の素晴らしいハーモニーが響き渡りました。最後の曲「房州行進曲」では太鼓とのコラボレーションという組み合わせに聴きいりました。

引き続き呼魂太鼓の演奏です。木をくり抜いて作る太鼓に宿るこだまの魂が響き合い、演奏の皆さんのパフォーマンスに魅了され、最後の「紅竜囃子」では三本締めのリズムで演奏者も観客も一緒に手拍子で楽しい一時を過ごし、記念事業を無事終了しました。

１５周年記念の演奏会 (2012.4)

（中野記）

１．９　会員の親睦あれこれ

当会では、不定期ではありますが、純粋に会員相互の親睦を深める意図にて旅行等のイベントを自然発生的に企画実施しております。そのいくつかをご紹介いたします。ご興味のある行程等につきましては、当会ホームページの「会の歩み、活動記録」をご一覧下さい。

（１）染井入落ウォーキング　2004/11/1

晩秋の一日、大堀川の会有志で、手賀沼へ流入している川のひとつである沼南の「染井入落」（そめいいりおとし）を中心にしたのんびりウォーキングでした。

将門神社は小さな社だが将門と聞くだけで引き締まる、しばし関東武士の昔をしのびました。医王寺は門から本堂への景観が見事でしっとりとした趣、銀杏の実が沢山落ちていました。

この一帯は林に囲まれて畑と屋敷が点在する感じのいい里山、何時までも残してほしいものです。

（２）金山落～お花見とウォーキング　2005/4/7

春うららの一日、今井の桜の花見をメインイベントにして金山落と手賀川南部の旧沼南町をのんびりウォーキングしました。

金山落は水量多めで水も割合きれいな感じ、ゴミも案じていたほどではなく、両岸の桜の枝が水面に張り出して風情満点、しかし下手賀沼に近づくと川はコンクリ三面張りと化しゴミも目立ってきました。不法投棄監視のカメラが設置されているのには驚きました。

この度柏市と一緒になった旧沼南町を歩けたことは良い記念になりました。

（３）新潟の隠し湯 ♨大沢山温泉の旅　2007/8/6～7

「国境の長いトンネルを抜けると、雪国であった。」 越後湯沢駅近くに川端康成の石碑がありました。『雪国』と言えば、先ずは駒子。島村という男が駒子という芸者と切なく情けを交わす物語です。女性と聞けばメのないN氏の要望でその駒子の後を辿ることになりました。

つるつるすべすべの温泉に入り、待望の食事とお酒を飲み楽しいひと時を過ごしました。米は本場魚沼のこしひかりで美味しく朝は皆お代わりしていました。途中「桂の大木」のあるお寺に案内していただきました。ここは一時ビルマの元首が亡命していたそうです。

越後湯沢では川端康成の小説「雪国」のゆかりの地を皆で歩きました。大堀川の会員としては珍しいことでした。山口さんの案内で昼食は「へぎそば」を美味しいお酒やビールで味わいました。お酒は八海山と塩沢の地酒でした。塩沢の地酒「鶴齢（かくれい）」は「青木酒造」、おそばやさんは「中野屋」でした。

（４）秘湯訪問：奥日光　2008/9/2～3

幸い天候にも恵まれ、初秋の景色、草木も楽しめたし、何より 無事に最後のゴールまでたどり着けたことはご同慶の至りです。私の歩数計では、２日目が１万８千歩・約１０キロ、３日目が２万１千歩・約１２キロでした。皆さん、脚の痛みなどは如何ですか。 平均年齢６５歳以上の老軍団が１人の落伍者も無く、よくも歩いたものだと感心しております。

（５）秘湯訪問：塩原温泉郷　2010/11/3～4

懇親旅行参加の皆様へ お陰様で二度と無いようなすばらしい天気に恵まれました。

今回の懇親旅行は日程を変更しながらの歩行でしたが、本当に楽しいウォーキングでした 。３日の日は肌寒い日でしたが、４日の日は朝から雲一つ無いすばらしい天気でした。私の歩数計では、１日目が約 10,600 歩・約６キロ，２日目は約 14,000 歩・約８ｋｍです。ちょうど良いぐらいの距離でした。

最後に、皆さんの意見で「ゆっくりセンター」で、本当にゆっくりと温泉に入り、懇談ができました。特に太陽の真下で、露天風呂にゆっくりと入れたのが何よりでした。いろいろとありましたが、無事に一緒に帰れたことへの皆さんの協力に感謝します。

終日抜けるような青空の下、『いちにち、この空の下眺めて過ごして いたいなぁ』 と思うほどの景色と天気に 恵まれて、近年の一大傑作の旅でした。

（６）秘湯訪問：群馬の湯宿温泉
2011/11/16～17

皆さんのご協力と幹事の冠木さんのご尽力により、 全員無事に楽しい旅行が出来ましたこと感謝申し上げます。又、奥村さんからご寄付頂戴しましたことご報告します。

旅の途上で、河井さんが声掛けたおばさんからコンニャクイモをもらいました。後日、加藤さんが食品に加工したようです。

（注）ＪＲ電車賃除く１泊２日の費用： 冠木名幹事により、バス代等込みで 8,200 円！

（７）秘湯訪問：那須の北温泉
2012/10/19～20

台風２１号が過ぎ去った翌日１９日は真っ青な快晴。ＪＲ東北本線では、ボックスシート２枠で祝杯をあげつつ談笑していると、〇〇事故のせいで遅れて黒磯駅に到着しました。

ここから紅葉”始め”を堪能しながら、バス

１駅分を北温泉口まで歩いて戻り、ここから北温泉に向かって更に歩きました。少々歩くと北温泉の駐車場まで来る車道は終わり、ここに「駒止の滝」の観瀑台があり、きれいな紅葉の中の大滝を見下ろせました。観瀑台から谷合に沿って、山間から那須の街並みを振り返り遠望しつつ、少し歩く下ると北温泉の屋根が見えてきます。

先ずは、屋外の温水プールが紅葉の向こうに見えました。北温泉の縦看板もすぐに見え、宿の玄関土間に炭火が温かく出迎えてくれ、左の階段を上って２階の２部屋に案内されました。（宿の縦看板にいちばん近い場所）すぐさま温泉に入りました。先ずは”混浴”の「天狗の湯」、男性の気配しかありませんでした。その隣りに「家族風呂」があり、そこには女性の気配がありました。この他、露天風呂の「河原の湯」にも入りましたが、”満天の星空”が空一面を埋め尽くし、大感激でした。

翌朝、まわりの紅葉の山肌は、青空のもと昨日以上にきれいになっていました。「駒止の滝」の滝つぼにも日があたり、まわりの紅葉も立派でした。夜明け前から構えていた数名のカメラマン曰く、「もう３,４日でもっときれいになるだろう」とのことでした。

駒止の滝の観瀑台そばには「日光国立公園那須平成の森」の入口があり、ここからフィールドセンターまで１時間弱ほどの散策が始まりました。那須の御用邸の近く、とのことでもあり、歩道には木くずが敷かれよく整備されていました。昨年できたらしいフィールドセンターでは、自然観察のガイドや各種イベントが行われていました。この日はチェンバロの演奏会もありましたが、我々は熊の生態に触れる無料ガイドに参加しました。今年は、森の動物にとってもドングリ等の木の実が大不作らしく熊たちも頑張るしかないようです。

紅葉を見ながら、道路沿いに下り、その後の上りを少々経て、「八幡平（標高 1100m だった？）」まできて、展望の良い遊歩道で昼食をとりました。昼食場所からすぐ近くに「八幡温

泉」のバス停がありました。バスも運よくすぐに来て黒磯に向かいました。お陰様で明るいうちに無事の帰宅となりました。

（８）はとバスで房総への懇親旅行

2013/12/3

素晴らしい天候に恵まれ晩秋のバス旅行を満喫しました。

柏を出て浜松町ターミナルに集合し、定刻通り満席はとバスは一路アクアラインを目指します。海ほたるで広くひろがる東京湾を四方に見渡し、その見事な道路工法にまで議論が及びました。房総に渡り酒菜舘で酒蔵を見学し幾つもの酒を試飲し、ほろ酔い機嫌で次の「牛匠しらいし」に向かいます。ビールで乾杯し、かずさ和牛と豚の焼肉を旨いと云いながらたっぷりと味わいました。いよいよ養老渓谷です。川に沿って見上げる紅葉はまだ見頃で差し込む光に紅く映えていて、川辺に下り皆さんでワインで乾杯しました。

次の東京ドイツ村に着いたのは日暮です。日が沈むのを見送り薄暮から夕闇に向かう中、広い敷地にイルミネーションが点灯し刻々と光を増すオブジェに感動を覚えました。車中で楽しく酌み交わし、順調に流れた交通状態にも感謝、東京駅に無事に早く到着となりました

（９）晩秋の富岡製糸場と八ツ場ダム

2014/12/3～4

１２月３日（土）快晴。上野駅から高崎駅へ、更に上州電鉄に乗換え４０分程で上州富岡駅１１時着。

ここから歩いて富岡製糸場への両側は商店が軒並み店内は勿論、電柱も≪世界遺産登録≫の旗やビラだらけ。さて、今旅行の目玉でもある製糸場見物では、ボランティアガイドにくっついて行く。見たかったのは繭から糸が紡がれる仕掛なのだが、建物の説明ばかりでがっかり。

先程の駅へ戻り、川原湯温泉駅に着く。降りたったのは我が１３人の侍のみ。先月出来たばかりの駅ながら、スイカがダメとあって駅員の機器操作でもたついたが、無事本日の宿「ゆうあい」に到着。

玄関が４階で崖にしがみつくように造られた館は急角度の階段を手すりに伝って降り、３階と２階の３室へ分散。一番下の階で風呂に浸る。今日は他に客ナシと聞いて女風呂も占拠。そして待望の宴会。カンパ～イの後は先程の出迎えオヤジの長～い挨拶。二次会は大部屋、炬燵を囲んで１１時過ぎまで侃々諤々（かんかんがくがく）。 メインテーマはこの会らしく【ゴミ問題】としておこう。“如何にすればゴミを失くせるか“という遠大な問題提示を披露され、激論は深更に及んでも終わらない。

１２月４日（日）晴のち曇。朝風呂浴びて８時朝食、９時半宿の車で道の駅まで送って貰い、建設中の八ツ場ダム見学。国土交通省のバスで３人の方に２時間みっちりガイドして頂いたが、適度な揺れと子守唄のような説明を耳に筆者不覚にも夢の中をさまよう。

思い出せるのは、何千億とかいう我らが血税を投じて巨大な橋を３つも造り、代替地に移転した建物は豪邸ばかり。立体交差の道路、豪勢な共同浴場等々目を見張るインフラ。それでいて、この長野原町人口は６千人を切り、この２０年間で１８％減少し「消滅可能性自治体」に挙がっていると云うから憤りを通り越してなにやら物悲しい。近くのレストランで昼食後は一路帰途へ。

（佐藤編集）

１．１０　表彰等の履歴

大堀川の川掃除を通し、地域の環境美化などに貢献した団体として、各方面から表彰していただけました。多くの市民の皆さん、柏市・千葉県等の関係機関のご支援・ご協力あっての有難いお話でした。

以下、受賞順に表彰等内容を紹介します。

■ さわやかハートかしわ推進協議会表彰
（２００１年３月）

さわやかハートちば県民運動の優良実践団体として表彰されました。

■ 東葛地区さわやかハートちば推進協議会表彰　（２００２年３月）

さわやかハートちばの優良実践団体として表彰されました。

■ 千葉県知事表彰　（２００７年１０月）

千葉県の地域環境功労者として堂本知事から表彰されました。

「日頃ご苦労さまです。長年にわたる活動に大変感謝しております。」とのコメントも添えられました。

堂本知事（中央）と当会中野代表（右から２番目）

■ 環境省水・大気環境局長表彰
（２０１０年６月）

平成２２年度の水・土壌環境保全活動功労者として表彰されました。

地域における河川の水質浄化、生活排水対策等の普及啓発、水生生物調査等の活動が評価されたものです。

青木代表（中央）と当会メンバー

■ 柏市長･市制功労者表彰（２０１４年１１月）

柏市制６０周年記念市政功労者表彰式にて、環境・土木・建設功労団体として感謝状をいただきました。

秋山市長から表彰される加藤代表

■ 環境大臣表彰　（２０１６年６月）

地球環境保全に係る地域環境美化の推進に多年にわたり顕著な功績があった団体として表彰されました。

式典会場の小林代表→

■ 国土交通大臣表彰　（２０１６年６月）

大堀川沿いの当会「七草花壇」に関し、花と緑の愛護に顕著な功績があった民間団体として感謝状をいただきました。

■ 柏市社協会長表彰　（２０１６年１２月）

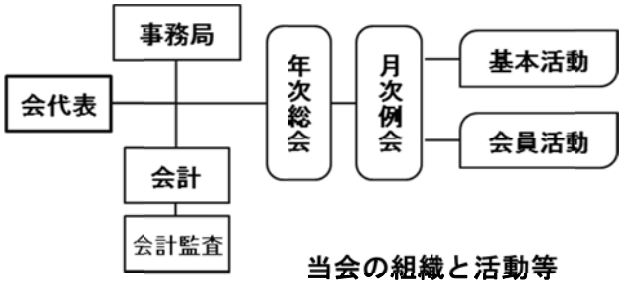
柏市社会福祉協議会の創立６０周年住民福祉大会にて、多年にわたり積極的に地域福祉活動に貢献したボランティアグループとして表彰されました。

（注）代表名は表彰当時。
（堤田記）

１．１１　当会の運営

（１）組織と活動

当会は、下記の組織図の様に極めて簡素な組織体にて運営されています。



当会の組織と活動等

それぞれの役割については右欄で説明していますが、当会の活動内容を決定づける一番の意思決定機関は、毎月第四土曜日夕方に開催される「月次例会(月例会)」であると言えます。

月例会では、自由参加による会員の中で、輪番により司会、書記が決められて当月の活動結果報告や問題点、次月以降の活動内容や留意点などについて話し合いが行われます。

当会創立当初から参加している会員も入会間もない会員も、それぞれの観点からの意見、議論が百出します。

会員それぞれの当会の運営に対する思いは違うものですが、忌憚のない意見を言い合った中で、不思議と方向性が収れんされていくというのが当会の一番の特徴であろうと思います。

（２）会員

当会会員は、２０１７年１月現在にて、３４名が登録されています。会員には、正会員の他に、個人の判断により、世話役、例会司会および書記等の割り当てが免除となる「賛助会員」、議決権を持たずに清掃活動にのみ参加する「准会員」の区分があります。年会費は 2,000 円ですが、個人単位ではなく家族単位での徴収となり、現在は、親子、夫婦の会員も居ます。

（３）もうひとつの意思決定機関

毎月末の月例会終了後には、誰が誘うとはなく、とある居酒屋に集合となります。

シャドウキャビネット？

もう少し自分の意見を披露したい人、言い忘れたことがあった人などが、それぞれの考えを言い合った中で、月例会の議事が「熟成」されていきます。もうひとつの意思決定機関であるとする所以です。

（参考）組織等の役割

会代表：会の代表として会を統括し、対外的な業務への対応
事務局：若干名が選任、会の運営全般を担当
会計：助成金申請も含め、会の経理を担当
会計監査：会の経理を監査
年次総会：年度初めに開催し、会員の過半数の合意により、前年度の報告及び次年度の計画を承認します。
月例会：毎月第四土曜日に開催され、全会員の自由参加により、会の意思決定機関として活動内容の詳細を協議決定します。
基本活動：市民・町会などにも呼び掛けて行う会としての公式な対外活動で、春・秋の大掃除、手賀沼統一クリーンデイ、月例清掃などが該当します。２０周年記念事業もこちらの活動となります。
会員活動：会員有志が自主的に行う活動で、水質協働調査、花壇の維持管理、フェスタ、展示会、親睦旅行などが該当します。

（深津記）

２．データでみる当会の活動

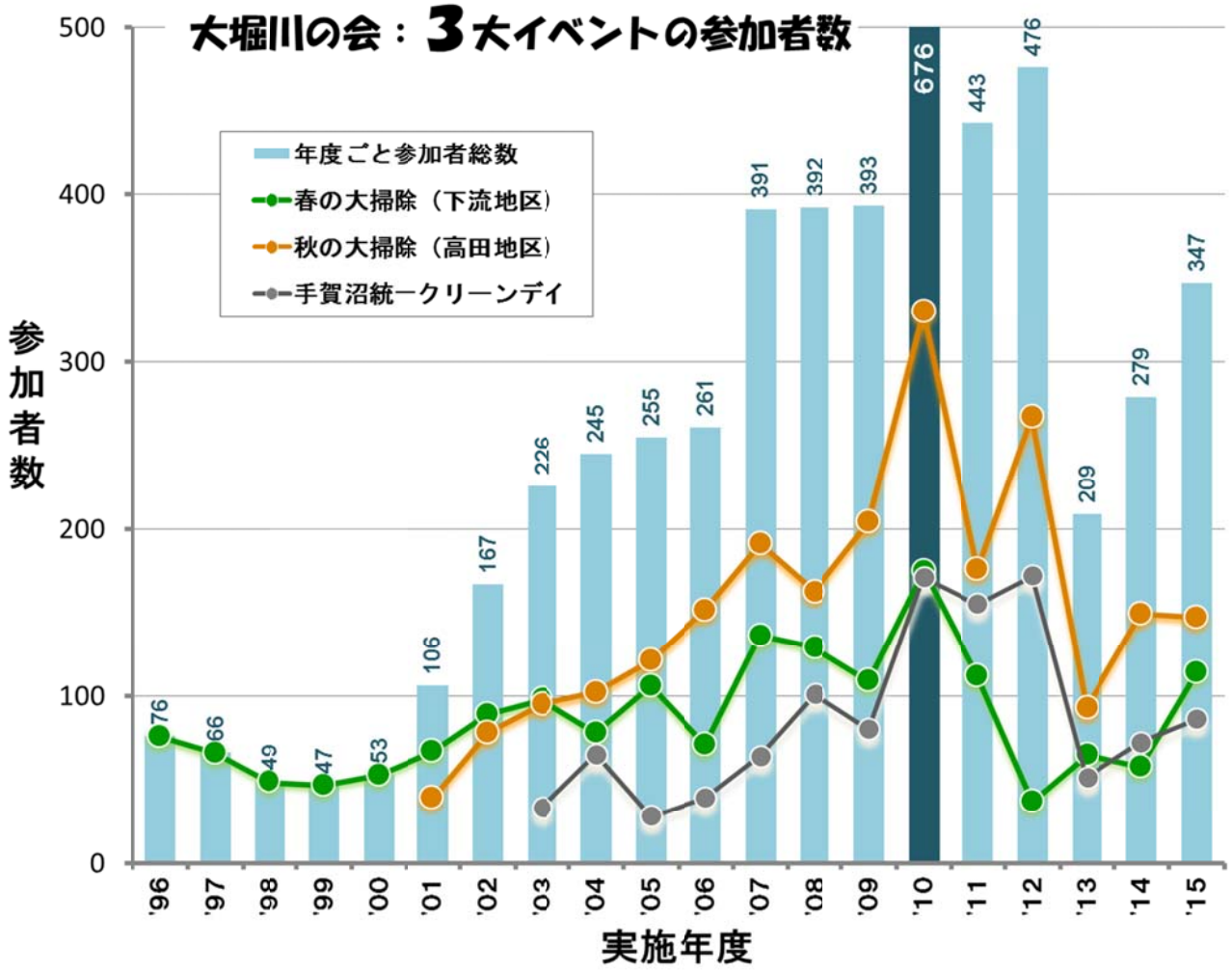
２．１　参加者数の推移
～３大イベント参加者数の趨勢～

１９９７年３月の第１回参加者は７６人、その後の年度ごとの参加者数でみると、２００１年度で１００人の大台に乗り、以降８年間は毎年約２０％ずつ増加して、極め付きは２０１０年度の６７６人。この年度の秋の大掃除には秋山市長も志願して胴長靴を履き、川のゴミと闘う大奮闘ぶり。その年度末には３．１１東日本大震災発生、直後に実施した春の大掃除は放射能ホットスポットの中にも拘わらず１７５人の方が活動されましたが、春の大掃除の中でこの数字は未だに破られていません。この２０年間を通して、秋の参加者が常に一番多く、次いで春、そして統一クリーンデイの順。その間雨で延期は２度程ですが、延期

市民の皆さんと一緒に、いざ大掃除へ
（2016.10、秋の大掃除）

するとどうも成績が芳しくなく、さりとて好天に恵まれても行楽へ流れるのか期待ほどではないようです。**“大掃除日和は曇り”**なんでしょうか。

（河井記）



２．２　収集ゴミの数量の推移

浜の真砂は尽きるとも
世にゴミ捨てる輩は尽きまじ。

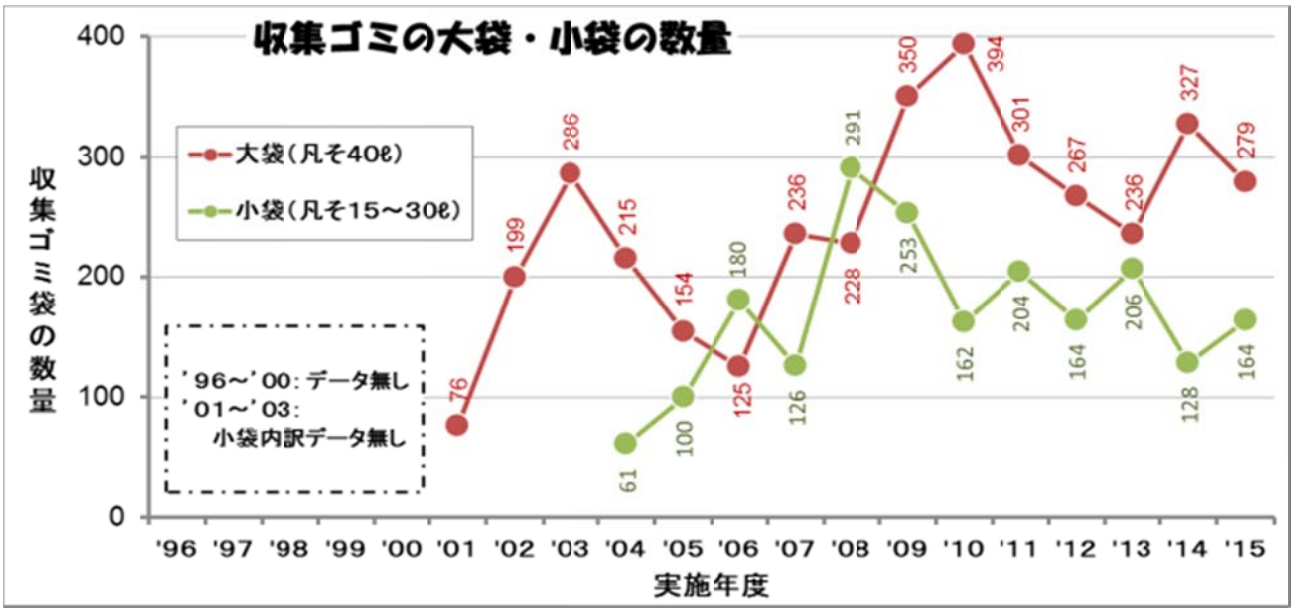
当初の大掃除イベントは春だけでしたが、５年後の２００１年度に秋の高田地区大掃除が加わり、更に２年後の２００３年に年末の手賀沼統一クリーンデイが始まりました。

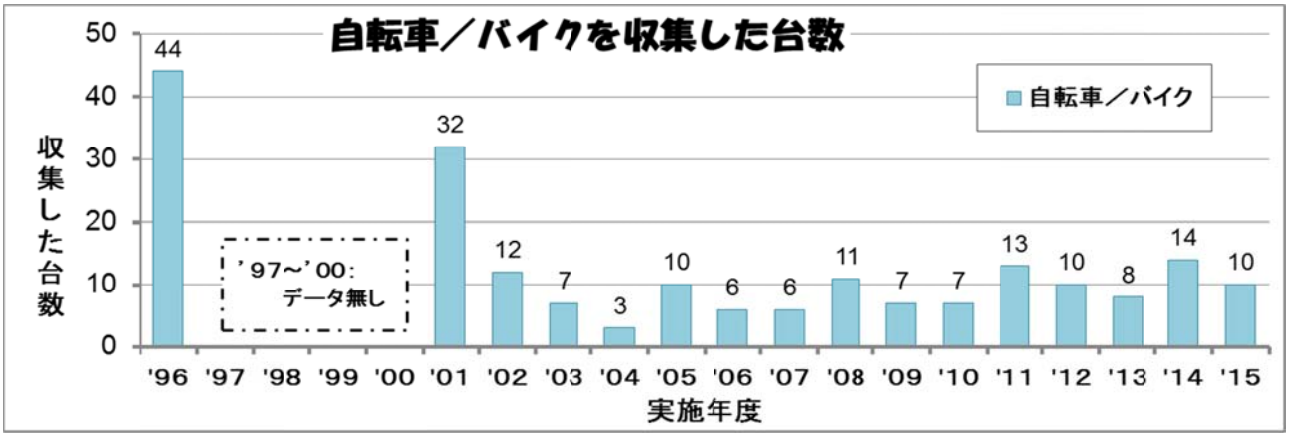
振返って第１回は７６人の参加者がそこかしこからバイク・自転車・タイヤ等空恐ろしい程引揚げました。以降４カ年のゴミ統計はありませんが、ゴミは徐々に減ってきて、水面浮遊物や路上にむき出しのゴミはさすがに目立たなくなりました。が、物陰、水底、草むらなどにはやはりゴミが捨てられています。その中で今多いゴミはプラスチック類です。

柏ふるさと公園前に散在するゴミ（1997.3）

下図にみるように最近の傾向では、廃棄ゴミは減ってないようです。ゴミは“ゴミ収集の日”があるというのに何故捨てていくと思いますか。

（河井記）

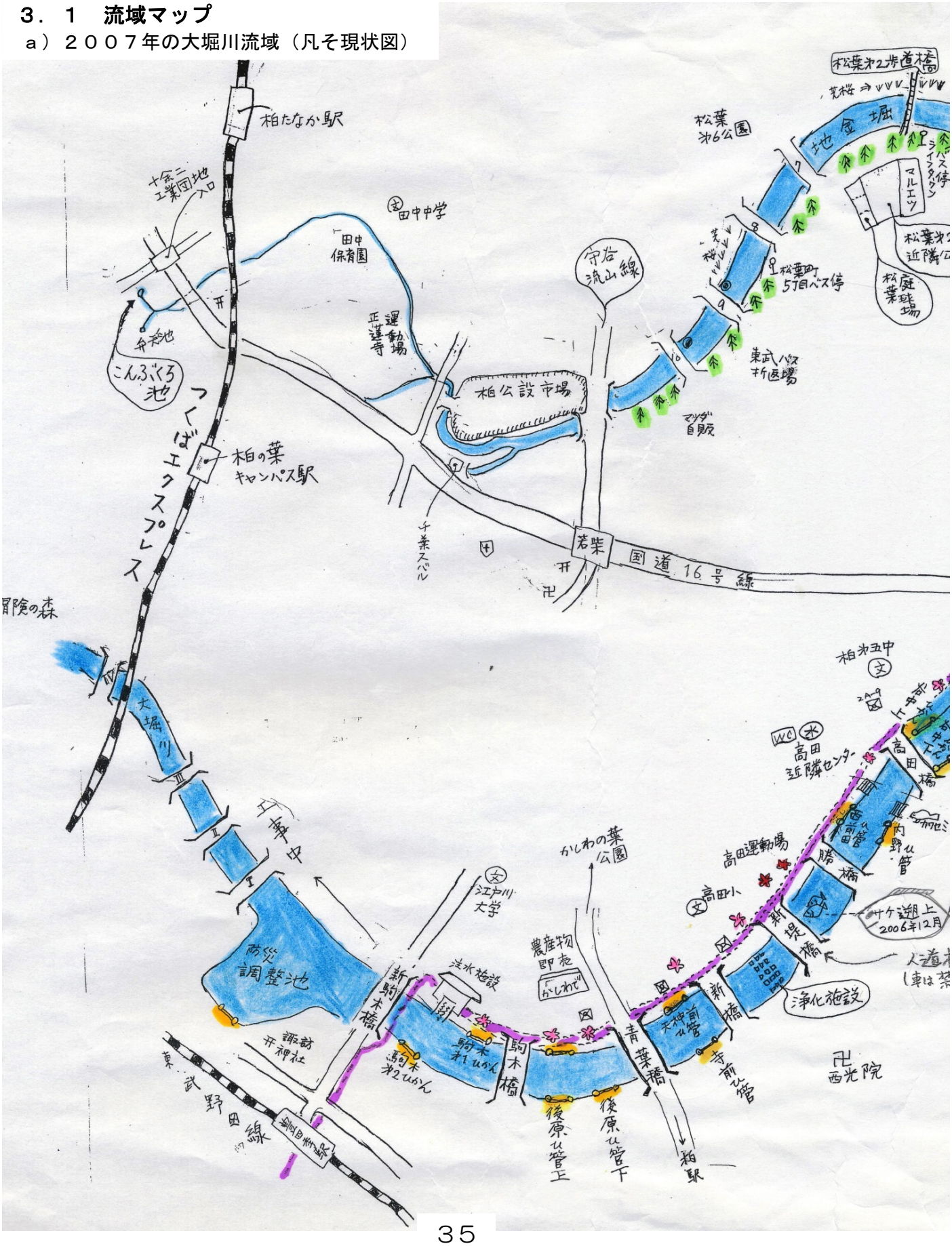




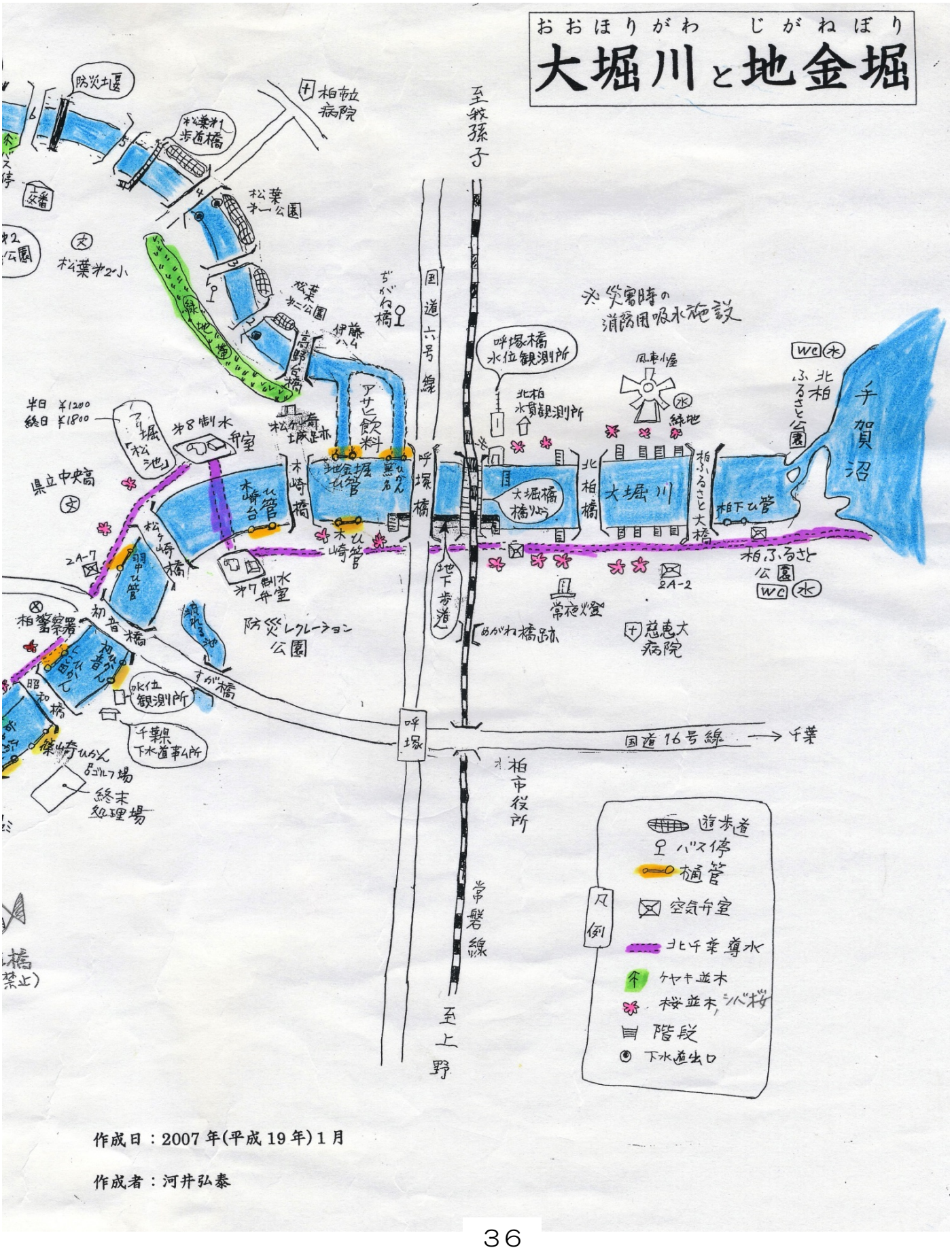
３．大堀川あれこれ

３．１　流域マップ

ａ）２００７年の大堀川流域（凡そ現状図）



当会会員の河井さんが描いた大堀川と地金堀の流域の様子です。紙面の都合で字が少し小さくなっていますが、水辺に沿って多くのものを再発見してみてください。

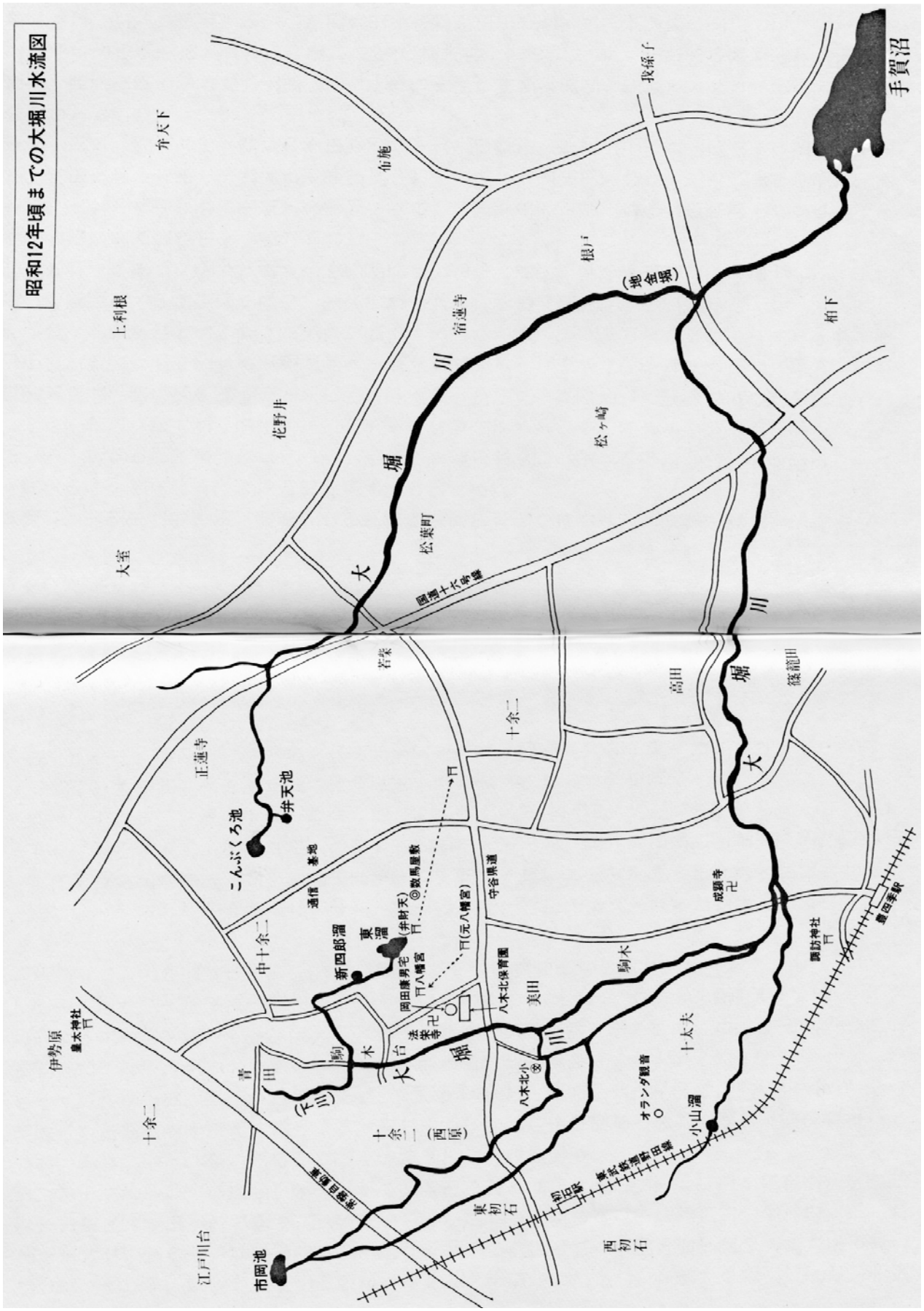


作成日：2007 年(平成 19 年) 1 月

作成者：河井弘泰

b）昭和１２年頃までの大堀川水流図

（出展）岡田康男「虹のかけ橋」崙書房、１９８６.



３．２　橋と樋管

当会が活動範囲としている大堀川の本流系には、１４の橋が架かり、１９の樋管が支流系の水を集めています。

ａ）大堀川に架かる橋

北千葉導水の大堀川注水地点のそばにある新駒木橋から、手賀沼河口近くにある柏ふるさと大橋までの大堀川に架かる１４の橋について、以下にそれらの横顔を紹介します。

新駒木橋

駒木橋

青葉橋

新橋

新堤橋

勝橋

高田橋

昭和橋

初音橋（国道１６号線）

松ヶ崎橋

木崎橋

呼塚橋（国道６号線）

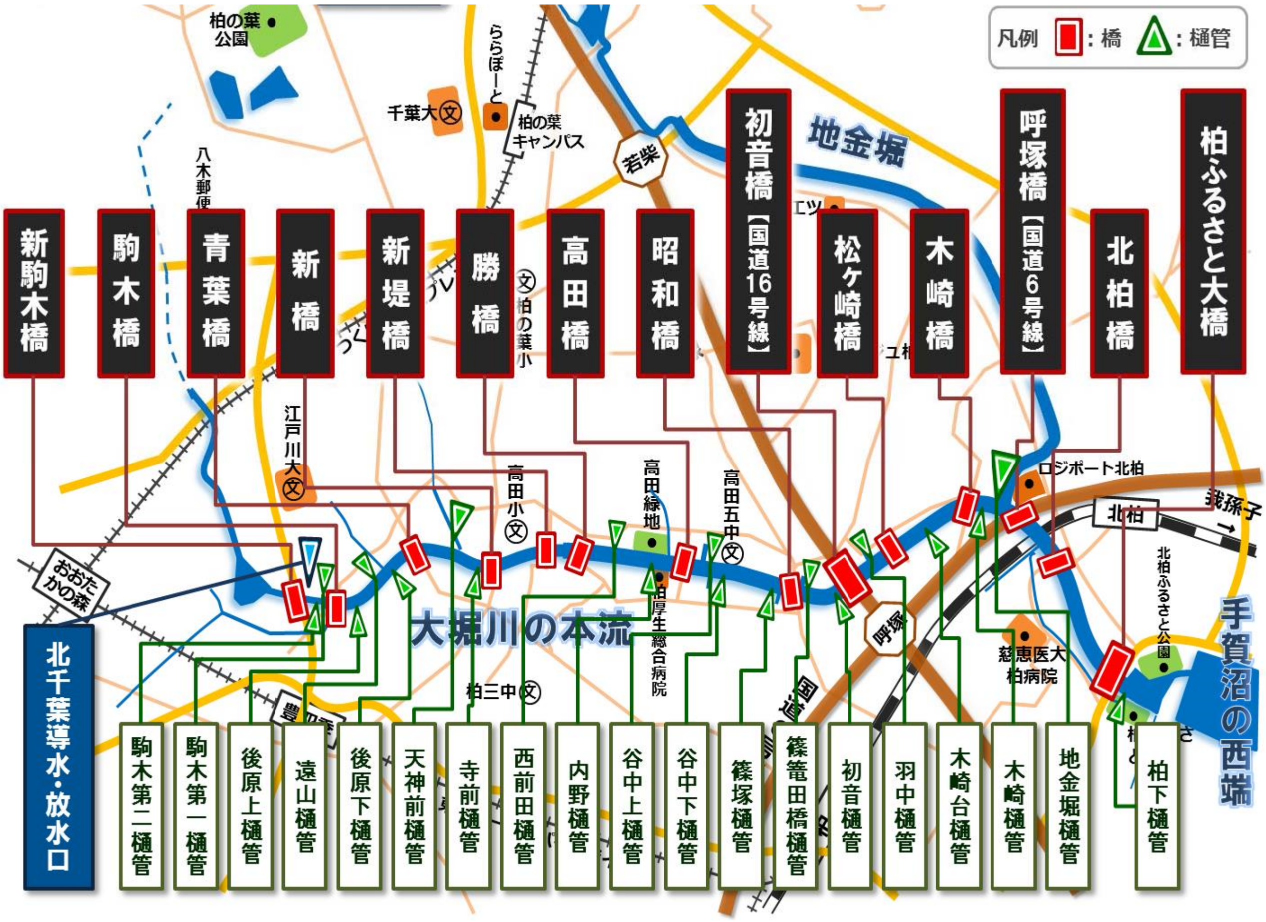
北柏橋

柏ふるさと大橋

大堀川に架かる１４の橋　（撮影：元会員の横井さん，2005.5）

b）大堀川に合流する１９の樋管

流域周辺の商業／工場地区、宅地からの流れ出る雨水・排水は、下図にある多くの樋管を通して大堀川に集まっています。



～／～

参考）大堀川に架かる橋の銘版　（撮影：当会の河井さん、2007.1）

（堤田記）

３．３　変貌してきた大堀川

２００５年開業のつくばエキスプレス周辺の林野や湿地の開発により、大堀川本流の上流部が３面張り水路や調整池に、地金堀の源流部でも大きな調整池への吸収整備が進みました。

ａ）大堀川本流の上流部の開発

豊四季駅北の新堤橋から美田に至る湿地帯が、約２m掘り下げ３面コンクリの水路となりました。また周辺部は住宅化し緑地はほぼなくなり、それに伴い大堀川水面が約２m低下し、滞留していた汚水がなくなりました。応じて約５０ppm のＣＯＤ値が現在１０ppm 以内に収まってきました。（パックテストによる）

↑
流山市美田
改修前
(2002.6)

← **改修後**
(2008.9)

ｂ）大堀川本流の支流部の開発
～天神前樋管～

従来は畑の間を流れる自然が残る堤防でしたが、３面コンクリ張りの下水路となりました。

これにより上流部の悪臭と高い COD 値が改善されました。

天神前樋管：改修前(2010.5)と改修後(2015.12)

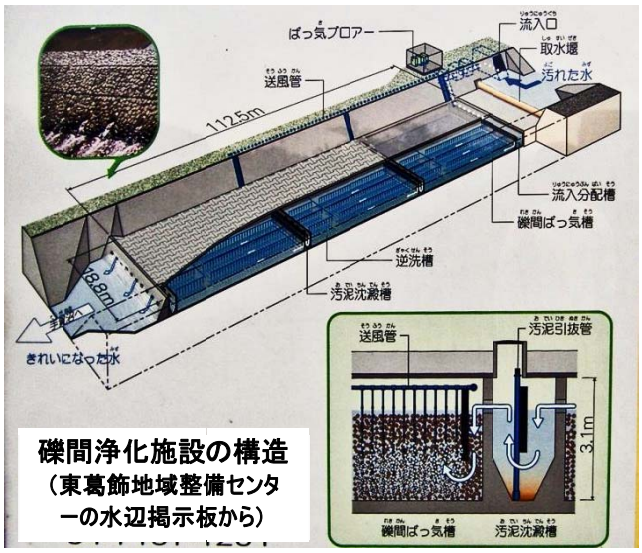
ｃ）地金堀の源流部の開発

つくばエキスプレスとの交差地域の大規模開発で、林野を伴う多くの小川が調整池の中に吸収されました。水質変化はありませんでした。

田中地区：改修前(2007.2)と改修後(2016.5)

～／～／～／～／～／～／～／～／～

参考）新堤橋上流の「礫間浄化施設」の試み



礫間浄化施設の構造
（東葛飾地域整備センターの水辺掲示板から）

手賀沼の水質浄化を目的とした本施設は、新堤橋の上流側に千葉県により設置されました。

その仕組みは、川底の下に約 4,000m^3 の空洞を作り、小石を敷き詰め外部から空気を送り込み、微生物の働きで水質浄化します。１９９８年運転開始した施設効果は、有機性汚染／浮遊性懸濁物質（ＢＯＳ，ＳＳ）を凡そ７割以上改善できたことが公表されています。

他方、国交省の北千葉導水の注水が２０００年から始まり、本施設無しでも目標基準を下回り、震災以降は節電のため停止に至りました。

（加藤記）

３．４　古文書にみる四方山話

柏市が市内の古文書をボランティアの応援を得て整理する中で、大堀川の橋梁掛替えにまつわる文書が見出されました。

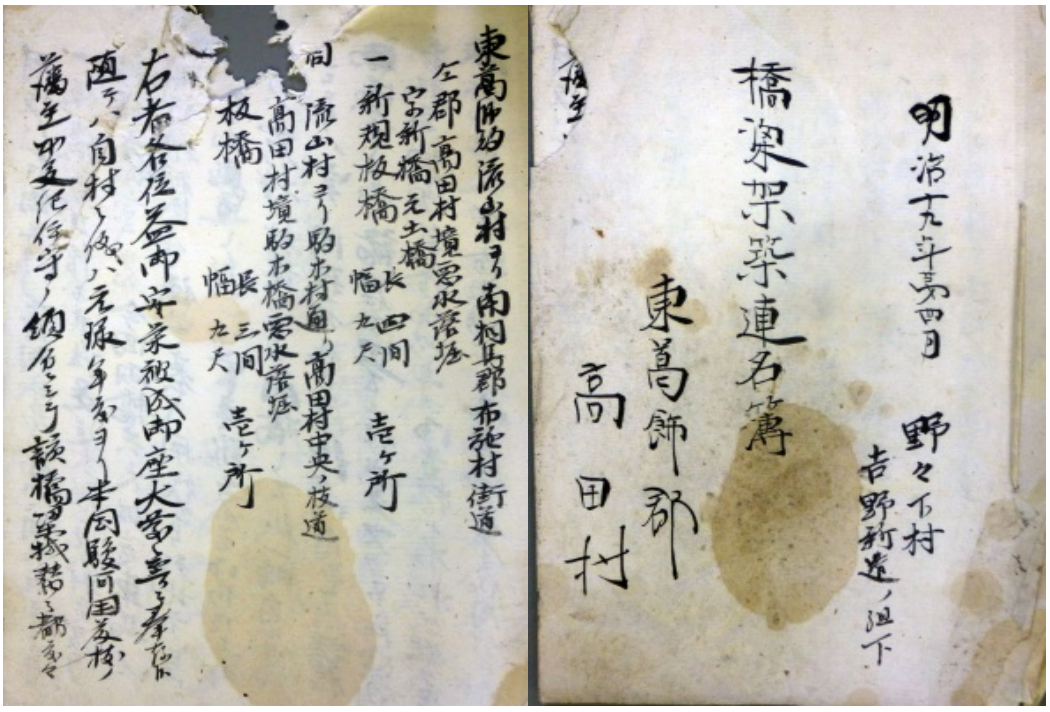
明治１９年に野々下村の吉野新蔵が作成したと推定される文書で、大堀川に架かる新橋と駒木橋が大破し車馬通行不能となった際の寄付を係る内容です。橋梁掛け替えの都度、藩主本多紀伊守からなされていた従来の用材提供が、明治初めの廃藩後は県道以外を村の費用等でまかなうよう制度改正されたことに対し、「窮村」がため村費のみでは充当できないので「助成金のためのご寄附」をお願いしたい、との内容になっています。

（河井記）

柏市・山崎秀夫家に保管されていた古文書（全８ページの先頭２ページ）

（柏市教育委員会から本資料の撮影、本誌への掲載許可を得ています）

原文の写し



記述されている文字（釈文（当会・河井作））

明治十九年戌四月　野々下村

吉野新蔵ノ組下

橋梁架築連名簿

東葛飾郡

高田村

東葛飾郡流山村ヨリ南相馬郡布施村街道

仝郡高田村境悪水落堀

字**新橋**　元土橋

一　新規板橋　長四間　幅九尺　壱カ所

同　流山村ヨリ駒木村通り高田村中央ノ枝道

高田村境駒木橋悪水落堀

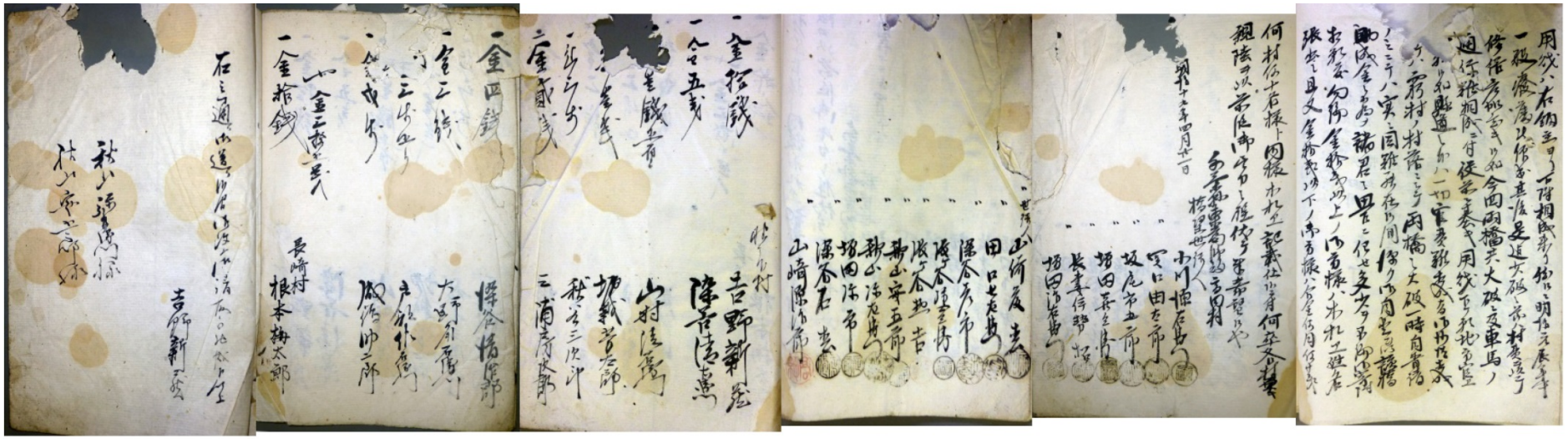
板橋　長三間　幅九尺　壱カ所

右者各位益御安栄被成御座大慶之壽と奉存候

随テハ自村之儀ハ元禄年度ヨリ本国駿河国藤枝ノ

藩主本多紀伊守ノ領分ニシテ該橋梁掛替之都度々

柏市・山﨑秀夫家に保管されていた古文書：前掲に続く６ページの原文写しと釈文



用財ハ右領主ヨリ下附相成来リ然ニ明治元辰年中
一般廃藩被仰出　其後是迄少破之所ハ村費ヲ以テ
修繕差加置キ候処今回両橋共大破ニ及車馬ノ
通行難相成ニ付従前ニ基キ用財下ケ願地方官ヲ
□□候処縣道之外ハ一切官費難相成旨御沙汰相成
□テハ窮村ノ村落ニシテ両橋之大破一時自費請
ノミニテハ実ニ困難罷在候間深ク御自愛ヲ以該橋
助成金ノ為メ諸君之思召ニ任せ多少ヲ不拘御寄附
相願度　勿論金拾戔以上ノ御方様ハ木札ヲ姓名
張出シ　且又金拾戔以下ノ御方様ハ合金何円何千戔
何村何十名様ト同様木札ヲ記載仕候ニ付何卒各村厚キ
親睦ヲ以前段御尽力之程伏テ奉希望候也

千葉縣東葛葛飾郡高田村
橋望世話人　小川源右衛門
明治十九年四月廿一日　々　関口由太郎
々　坂尾市五郎
々　増田嘉兵衛
々　長妻伊勢口
々　増田作右衛門

世話人　山﨑藤松
々　田口七右衛門
々　深谷彦市
々　張ケ谷弥五兵衛
々　張ケ谷惣吉
々　秋山安五郎
々　秋山弥右衛門
々　増田弥市
々　深谷石松
々　山﨑源治郎

野々下村
一金　拾銭　吉野新蔵
一金　五戔　染谷清右衛門
一金　壱銭五厘　山村清右衛門
一金　壱戔　堀越芳太郎
一金　壱戔　秋谷三次郎
一金　貳銭　三浦房太郎

一金　四銭　染谷清治郎
一金　三銭　大野角右衛門
一金　三戔五厘　戸頭作右衛門
一金　弐戔　成嶋助二郎

〆金三拾五戔

一金　拾銭　長崎村　根本梅太郎

右之通り御造り御届御改被御請取可被成候　以上
吉野新蔵

秋山弥右衛門様
秋山　安五郎様

３．５　大堀川の放射線量のその後
～地金堀合流点を中心に～

地金堀合流点は子ども達との夏の生き物調査を行っていた地点です。2011 年福島原発事故後の安全性が問題視された翌年、当会の自主調査で政府基準以上の空間放射線量が確認されました。その報告の後の県調査でも同様な結果が認められ、「局所的な高線量」が示される４地点の１つとして「立入禁止」とされ（2012/6/18）、今に至っています。

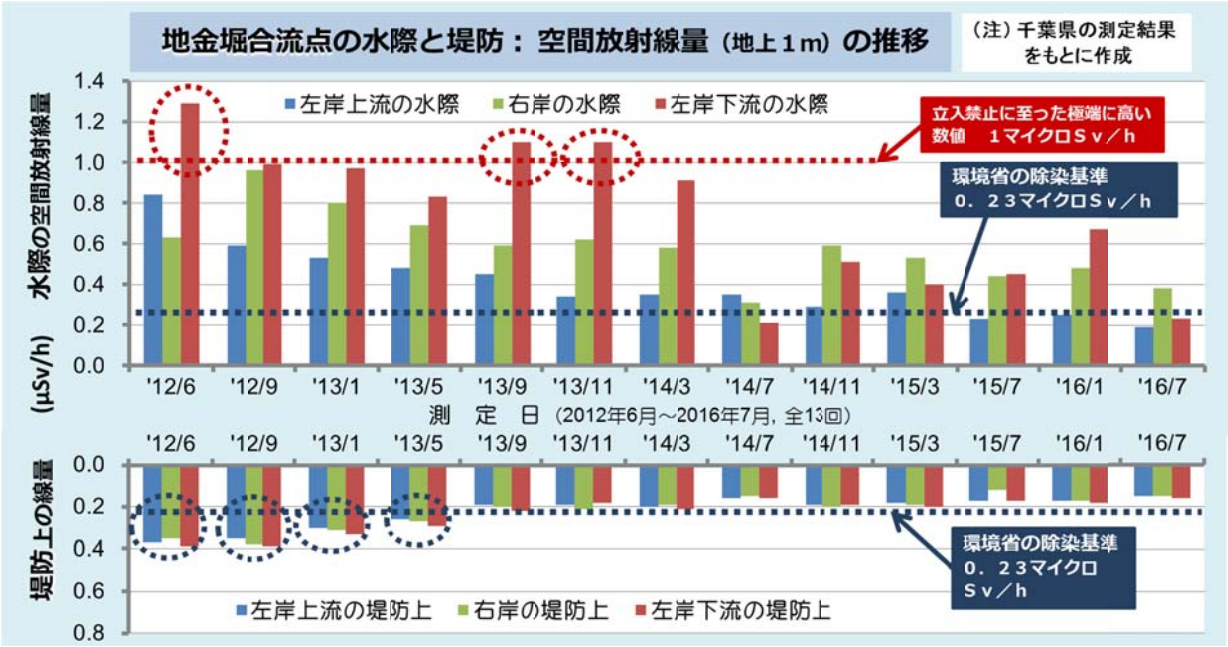
以降、千葉県では空間放射線量や川底の底質セシウム濃度等について、年数回の調査結果が公表されていますが、当会では以下のａ），ｂ）のようにその推移を追跡しています。

現在は、立入禁止に至った１マイクロ Sv/h は大きく下回っていますが、常時滞在にふさわしくない基準 0.23 マイクロ Sv/h を超えるため、立入禁止が解除されずにいるようです。

一時的な立ち入りや調査活動にふさわしい基準の登場を期待したいこの頃です。

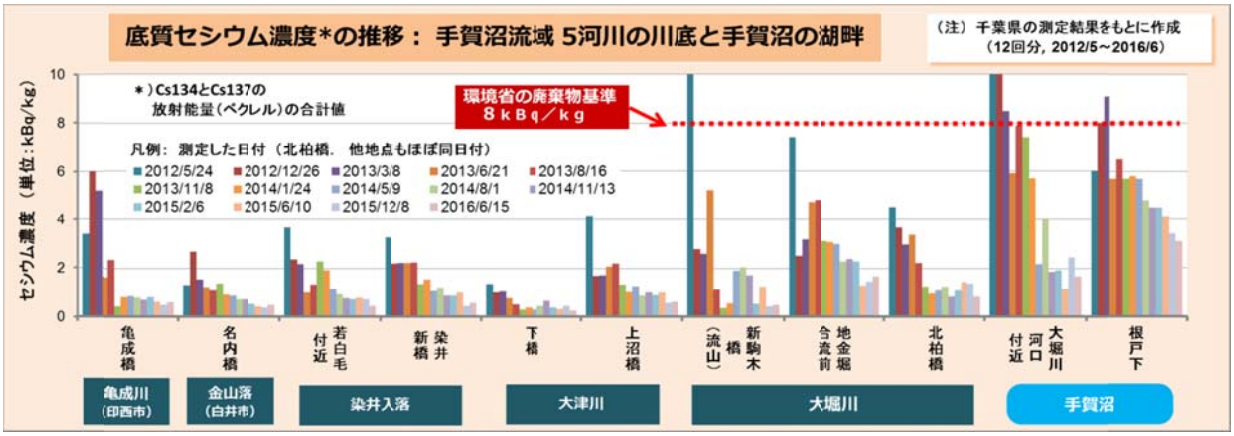
（堤田記）

ａ）千葉県データにみる空間放射線量の推移：　上流／合流点／下流の水際と堤防上の計６ヶ所



（元データ）県管理河川施設等の空間放射線量測定について，千葉県サイト

ｂ）千葉県データにみる底質セシウム濃度の推移：　手賀沼流域と流域５河川について



（元データ）海水、砂浜、河川等に係る放射性物質調査について，千葉県サイト

４．皆さまからの声

（注）組織・所属名のない方は、当会大掃除イベントへの一般参加者です。

設立２０周年おめでとうございます
柏市役所環境部環境政策課 様

「大堀川の水辺をきれいにする会」設立２０周年、誠におめでとうございます。

環境政策課と会とは大堀川の水質協働調査や手賀沼流域フォーラムをはじめとして、大堀川や手賀沼に関わる様々な場面で協働して活動を行っています。こうした活動のなかで見られる、会の皆様の地域環境保全への情熱と行動力に日々感服しております。

現在の大堀川の水辺環境はこれまでの会の皆様のたゆまぬ努力と大堀川に対する思いにより維持されてきたものといえます。

こうした２０年にわたる活動の継続は、昨年６月、地域環境美化功績者として環境大臣表彰を受賞したことで、市域にとどまらず市外や県外にまで広く誇れる活動として認められたことは大変喜ばしく、また、改めて敬意を表するものであります。

末筆ながら、環境政策課はこれからも会と思いを一つにして地域環境保全に取り組んでいくと共に、今後の会の活動の成功とさらなる発展を心からご祈念申し上げます。

２０周年に寄せて
柏市役所都市部公園緑政課 小川 靖史 様

大堀川の水辺をきれいにする会が２０周年を迎えましたこと、心からお慶び申し上げます。また、日頃の皆様のご活動に敬意を表しますと共に、当市における緑の保全活動推進に多大なるご理解とご協力を賜っておりますこと、御礼申し上げます。

今年６月、第２７回全国「緑の愛護」のつどいが県立柏の葉公園にて行われました。この催しは、「みどりの日」にちなんで緑豊かな環境づくりの推進を目指し、全国で地域の緑化・緑の保全に取り組んでいる団体等が一同に集うものです。毎年全国各地の公園で行われており、千葉県では初の開催でした。このような行事が当市で開催された記念すべき年に、同じく節目の年を迎える貴団体が「緑の愛護」功労者国土交通大臣表彰を受賞されましたことは、誠に喜ばしい出来事でございます。

大堀川は、当市の緑において骨格のひとつとなっている重要な河川です。その大堀川において２０年にわたり保全活動に取り組まれてきた皆様のご努力に感謝するとともに、今後の大堀川の水辺をきれいにする会のさらなる飛躍と皆様方の末永いご活躍を心よりお祈り申し上げます。

２０周年に寄せて
柏市立柏第四小学校　高橋 弘美 様

「大堀川の水辺をきれいにする会」の創立２０周年を心よりお祝い申し上げます。

今年度、本校４年生は校区を流れる大堀川の学習を行っています。本会の活動をホームページで知り、早速授業に協力していただきました。パワーポイントを使って、子供たちの疑問に一つ一つ丁寧に答えてくださる姿に皆様の大堀川に対する 熱い情熱を感じました。

また、本会主催の清掃活動に４年生児童と職員の一部が参加させていただきました。空き缶などが投げ捨てられている川の中で生物が生息していることに驚きの声を上げていました。活動後、私たちの活動を紹介してくださり、参加した子供たちはみな温かい気持ちになりました。

本会の発足以来大堀川の美しさをよみがえらせ、維持していく並々ならぬ熱意に敬意を表します。子供たちが大堀川に関心を持ち、今後も川の環境を守っていくことの大切さを伝え

ていきたいと考えます。

「大堀川の水辺をきれいにする会」 設立２０周年を祝して
柏530(ごみゼロ)の会　代表 佐藤 誠 様

「大堀川の水辺をきれいにする会」設立２０周年おめでとうございます。

流山を源流とし柏市を通り手賀沼に注ぐ大堀川は、以前、生活排水を含めて自転車など大型ゴミや一般ゴミのポイ捨てが多く非常に見苦しい状態だった。

その状況を見かね、有志に呼びかけ立ち上げたのが設立の動機だと聞いております。

以来２０年、今まで大変なご苦労があり、皆さまの環境を守ろうという熱意と努力・協力によって継続されてきたのでしょう。

そして大堀川清掃活動の他に花壇造りや手入れ、生物水質調査、環境についての啓発・啓蒙など多岐に渡って活躍されております。３・４年位前から大堀川に鮭が遡上してくるとは驚きです。そうした活躍の皆さまには心より尊敬もうしあげます。

これからも貴会及び会員皆さんの益々の繁栄とご健勝を祈念してお祝いの言葉とさせていただきます。

お祝いのことば
社会福祉法人柏市社会福祉協議会
会長　中谷 茂章 様

大堀川の水辺をきれいにする会が、創立２０周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

歴代の会長をはじめ、会員の皆様方の活動に対する熱意とたゆみない努力の賜物であると存じます。

貴会におかれましては、毎月実施されている環境保全活動をとおしての、ボランティア育成や青少年ボランティアの受入れなど、地域福祉の向上に積極的に寄与いただいていることに、心より敬意を表する次第でございます。

皆様方におかれましても、この２０周年記念という意義ある年を契機といたしまして、更なる地域福祉の発展に一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、貴会のますますの御発展と会員の皆様方の御健勝と御活躍を祈念いたしましてお祝いのことばとさせていただきます。

設立２０周年おめでとうございます。
フォトスリー柏かわせみの会
会長　下鳥 正彦 様

「大堀川の水辺をきれいにする会」設立後、２０年の長きに亘って川をきれいにする活動を続けられていることに対して、心より敬意を表すとともに、設立２０周年を迎えられたことに対して、会員一同心からお祝い申し上げます。

私たち「フォトスリー柏かわせみの会」は、大堀川でかわせみを中心に、四季折々に飛来する色々な鳥を含めて撮影をしているグループです。

川の周辺の美化については、私たちも日ごろから関心を持って、微力ながら毎年の秋の大清掃の日には参加させて頂いております。現在、「きれいにする会」には多くの方々が参加されておられますが、今後とも「かわせみ」の住む美しい大堀川のため、更なる会の飛躍と末永いご活躍をお祈り申し上げます。

大堀川に思うこと
中野 良重 様（我孫子市湖北台）

ナルクの仲間のＳさんから「おにぎりとバーベキューが沢山食べられるよ。それと、ビールもね。行かない？」と誘われ、餌につられ犬コロの様に、不純な動機で柏ふるさと公園に向か

いました。

大きなゴミ袋を持ちゴミ集めをする内に、他の人より量が少ないのが気になり始め、まるで運動会の借り物競走の様にゴミハンティングにのめり込みました。収集したゴミの山を前に写真をパチリ、ＴＶで見る無人島生活の浜口君のセリフが如く「とったどー！」の気分です。私って、変態？？

それから川の変化に興味を持ち、年々きれいになっていくのを気が付きました。ボランティアの充実感がこれ程ハッキリでる仕事は無いと思います。これも日頃の「大堀川の会」の皆様の力量の成果です。

昨今では、長寿大学の友人に声掛けをしていますが、少しは理解してもらえたかなと思うまでに 3 年の時間が経ってしまいました。熱意も少ないせいでしょうが、日本人にはボランティア精神が培われていない実感を味わっているところです。でも、若者たちが参加してくれている状況を見ると、まだまだ日本は捨てたものじゃないと少しは安堵し嬉しくなるババアです。

冬の作業は年々身体に厳しくなってきています。冷たいペットボトルのお茶よりも何か温かいものが恋しいです。大して働きもしないのに希望だけは一人前でゴメンナサイ。

小さな満足

金子 康志 様（我孫子市つくし野）

「笑い声・鳴き声・叫び声」甲高い声の一団が到着したのか、賑やかさは倍加した。園児の散策であろうか。この公園はどこよりも綺麗とのことで散策のスケジュールに組み込まれているらしい。ボランティアとしての自尊心をくすぐられる。子供たちの遊び場、老人の憩いの場としても人気が高いと知ってとても嬉しい。

金木犀が小さな花と香気をとどけてくれる。もうすぐだ。良いことばかりではない。闇に紛れてベンチでの飲食、汚し放題である。トラブらないようにと、又いつかは止むだろうと後片付けに専念している。「内心」煮えくり返る思いであるが、老骨に鞭打っての近所の活動を紹介する。

「大堀川の水辺をきれいにする会」来春２０周年の由、先ずもってお祝い申し上げますと共に益々ご発展なさいますように心より祈念しております。今でこそきれいになった大堀川も、会発足時には汚れも酷く想像を絶したと伺っている。会員の皆さんにはお骨折りお疲れ様でした。

受け身の大堀川では、始末すること、尻拭いだけでは「やってられるか」といつブチ切れてもおかしくない。精神的拠り所をどこに求め、且つ持続させるか、運営の悩みは尽きない。ご苦労の程、痛み入る。

行政に疎い者の「戯言」として聞いて、情報発信に偏りはないのか疑問だらけ。広報の催事案内に見る、フリーマーケットがあって清掃関連は無い。重視の先が違っていないか。

啓蒙の結果、「ゴミは捨てない」が当り前になれば世の中は変わる。不要になるとまでは言いかねるが、団体など及ぼす影響は多岐に亘りその効果も絶大となる。行政には一石二鳥のこの上ないことだろう。啓蒙の場はいくらでもある、本格的な注力、出動に期待したい。

誘われての参加も４年目、皮肉って心紛らす。

その１、漁座の放置が目に余る。漁業権には河川敷所有権までは含まれぬ。釣り人よ勝手は許さん。

その２、笹薮に隠してまでもゴミ捨てる。プライドまでもすてちゃった。「了見、狭い」こんなダンナは即離婚。

歳と共に機上の人となることも減った。飛び立つ前、整備士は一列になって手を振る。「私達が整備しました。安心して旅して下さい・・」と。満足感溢れる笑顔が素晴らしく、すがすがしい。こんなところに潜んでいたのか「ボランティアの原点」胸打たれる出合でもあった。

『オーイ、そこのお若ぇの、たまにゃあ付き合えボランティア。気分転換、請け合うぞ！』

２０周年に寄せて
上橋　泉 様（柏市根戸）

私が大堀川の水辺をきれいにする会の活動に参加するようになったのは最近のことで全くの新人ですが、清掃参加を始めて間もない頃の平成２７年３月、手賀の丘公園にあります青年の家で合宿していたカナダ発祥の青少年ボランティア団体に出向いて、当会の活動を紹介して参加を呼び掛けたことがあります。

その日の夜は彼らの行事にも参加して青年のリーダーシップについて、この年になって学びました。彼らの何名かは東南アジア各国から来ていました。

数日後、彼らが高田緑地に来て当会の清掃活動に参加してくれました。柏市広報並びに市民新聞が取材に来てくれました。当会の活動は地味な活動ですが、このような広がりとＰＲがあると言うことは嬉しいものです。

川の掃除に参加して
林　眞画　様（柏市富里）

日頃、何気なく見過ごしていることが、あることをきっかけにまた違った見え方になるということがあります。この活動への参加もそのような導入だったといえます。

『川の掃除ってどんなことをするんだろう』という単純な興味から、お誘いを受けて参加し、２年が経ちました。

川べりに沿ってごみを拾いながら、草むらに隠れて一見きれいにみえる岸辺や川の中に、たくさんの様々なごみがあること、ごみを無造作に捨てる人がいること、川の自然を守るために会員の方々の長年にわたる、地道な活動があることを知りました。そして、これまで無関心であったこの川への眼差しが、自分の中で変わってきたことに気付かされました。

２０周年おめでとうございます。
小川 克也 様（柏市あかね町）

私たちおしどり夫婦は貴会が初めてのボランティア参加でした。

寒風の中、冷たい川に入ってドロだらけになっても満面の笑顔でおられる大先輩方の姿を拝見し「ボランティアってもしかしたら楽しいのかもしれない」というワナにまんまとはまってから今年で３年目になります。

堅実派の妻は、終了後のビンゴゲームで新鮮な野菜をゲットできることがモチベーションになっているようです。

私は柏に生まれ育ち四小、五中で学びました。すぐ横を淀んで流れる当時（４０年以上前）の大堀川は、それは汚くて臭くて、草ヤブで誰も近づかない怖い川でした。

そのような感覚しかないまま覚悟を決めて参加しましたが、拍子抜けするほど川辺はきれいで、これも皆さんの清掃の賜物と感じました。

ベッドタウンとして発展してきた柏は歴史が浅く、人のつながりも薄く、広大な自然もない街です。その中で大堀川がきれいであり続けることで、これから１０年、１００年、そして永久に、柏に住む人々の心の支えとなり自慢となるような大きな大きな河となっていくと思います。

大堀川の水辺をきれいにする会の皆様の日々のご活動に感謝を込めて。

参加の楽しみ
丸山 紀子 様（柏市布施）

「大堀川の水辺をきれいにする会」が２０周年を迎えられたこと、おめでとうございます。私が柏市に来て２０数年が経ちます。当初、手賀沼の水質が全国でワースト上位だった記憶がありますが、その昔は泳げたそうですね。現在、きれいになってきたのは、会の皆様が真摯な活動を続けたおかげだと思います。

私が会の活動で楽しみにしていることは５つ。

１つ目は勿論、大堀川周辺のゴミが減って綺麗になること。２つ目は川沿いにゴミを拾って歩くと結構な運動になること。長靴を履いて川沿いを歩くのですが、高く伸びた芦や草が生い茂っているので腿を上げて歩かなければならず、普段は歩かないのでなかなか大変です。３つ目は季節が感じられる植物や野鳥に出会えること。１０月は可愛いヘビイチゴ、３月はつくしを見つけました。写メを撮り楽しんでいます。４つ目は活動後のおにぎりやソーセージの昼食。空の下で参加者の皆さまとまったりした時間を過ごせます。５つ目は待ちに待ったビンゴ大会。新鮮な野菜を当てようと番号発表にドキドキです。前回もらった菜の花は、からし醤油和えにして美味しく頂きました。

活動を続けるのは大変なご苦労があると思いますが、今後も楽しく参加させて頂きますので、これからも宜しくお願い致します。

清掃参加のきっかけ
三寺 克侑 様（柏市松葉町）

２年半前まで越谷市に住んでおり、綾瀬川や元荒川周辺をよく散歩しておりました。柏市松葉町へ越してきて、最初の散歩も大堀川沿いで、北柏ふるさと公園近くで偶然に見かけた「カワセミ」が印象的でした。大堀川の清掃に参加したきっかけは、「きれいな川には小魚も住みカワセミも来る。」ことより、たまたま見た地域情報誌の「大堀川の大掃除に来てね。」でした。この時は高田緑地周辺でしたが、２、３回目は北柏ふるさと公園近くの清掃でした。

土手には葭や葦また蔦等が川淵まで繁茂し、それらをかき分けて紙屑・空き缶・ペットボトル等を拾い集めるのもかなり大変です。でも、その後のご苦労さん会やビンゴゲーム等で疲れも癒されました。

清掃に参加する意義は、川と水辺をきれいにすることで、少しでも多くの魚が住み、鳥たちが集まり、多くの花が咲き誇る大堀川にするためです。

大堀川
山田 行雄 様（柏市若柴）

私の趣味はマラソンそれにサイクリングで、大堀川沿いに手賀沼サイクルコースなど、１週間に１～２回走ったり、ツーリングで楽しんでおります。

１０年位前は、川沿いに放置自転車や空き缶、ペットボトル、ビニール袋が散乱していました。

それを見るにつけ、何とか綺麗にしなくてはと思うようになり、広報かしわに大堀川の大掃除の記事を見て、参加する様になりました。

数年前は、ゴミ袋２～３枚のビニール袋やペットボトルを拾い集めましたが、ここ１～２年はゴミ袋１枚位になり、マナーが良くなったと感じております。

この数年、鮭が大堀川を遡上していると聞いております。

２７年間日本で一番汚い湖沼が、今では鮭が上ってくるとは誰も考えつかなかったかと思います。

私も現役ではありませんが、まだ働いております。土日出勤もありますが、身体が続く限り参加しようと思っております。

大掃除に参加して
好田 富男 様（柏市明原）

私は約１０年前に定年退職し、運動を兼ねて自転車で散策し乍らついでにゴミを拾い始めました。大堀川の両岸の堤のうち、厚生病院側の歩道は未整備で、道幅も狭く人ひとり通る程しか無いので、途中、犬の散歩の人達とすれ違う際にはわざわざ横によけて貰ったりして恐縮しました。

当時、雑草の中には空き缶、空き瓶等たくさん落ちており、たちまち自転車のカゴに一杯に成り、当時、所々の橋の袂に置かれていた網袋に１日に何回か運び入れていました。

それから暫くして掲示板だったか、広報だっ

たかで「大堀川の大掃除」の事を知り、参加する様に成った次第です。その頃、川の中にはオートバイや自転車また家電製品等も結構投棄されていましたが、最近ではこの様な大物はあまり見られなく成った様です。

年々大堀川の環境も改善され、流れる水が浄化しているのも「水辺をきれいにする会」の代々の関係者を含め皆様のご尽力のお陰と大堀川を普段から利用している者の一人として有難く深く感謝致します。

八郷ぐらしの今
当会ＯＢ　土棚 光夫様　ひさこ様

大堀川２０年ですか。現在は筑波山の麓、八郷の地で豊かな自然を大切にする暮らしをしています。７年程前小さな地面を入手し、そこを拠点に、周辺に広がる森、竹林などを大堀ケース同様に多くの仲間とともに手入れなどを細々と続けていますよ。それにしても大堀川２０年ですか。こんな仲間と八郷でもやれたらと願っています。（光夫）

川面から突き出た投棄自転車数台をぬうようにカモが泳いでいた。気になったが・・・。そこに寺尾さん登場。彼の物怖じしない行動力で、市民ネットや企業に働きかけ動き出した。泥から引き出す道具を作る。企業に飲み物とウィンナーをもらう。そして何かしたい住民が集まり、拾い上げた。もう２０年前。あの日が目にうかぶ。　（筑波山の里山にて　ひさこ）

大堀川の水辺
当会ＯＢ　小平　兵衛 様

思い出は、いつの時も輝いている！

- 永い眠りから、いくつもの自転車・バイクが吊り上げられた
  鼻に付いた、ヘドロの香
- 台風一過、腹まで浸かり、流れの中で格闘した流木の山
- 拒む枯れ葦（アシ）を縫ってアヒルの様にゴミを漁（アサ）ったゴムボート
- 細い梯子を登ったら資材の片付が待っている、風車小屋のミステリー
- 水門口へ、子供達と追い込んだ、黄金（コガネ）にうねる鯉の群れ

毎度のゴミの大漁船（タイリョウブネ）・次は後始末か！
作業を終えて打上、あのビールの旨さ！笑い声！
仲間の心は一つの、人ばかり！

みんな、みんな　思い出だ！！

それは、
資材購入の補助金を獲得する為に、発起人と懸命に走り回った頃の遠い起点から、
ずっと繋がっている

忘れかけた、
少年の日の記憶は、今も老人の心を揺さぶる！

備考　発起人：寺尾直宏氏

５．会員からの声

〇青木保雄　～～

「ゴミは不思議ね」♪♪

ゴミは不思議ね　拾ったはずの
川の岸辺に　すぐ顔を出す
この世の縮図か　やるせない思い
永いこと闘った　つもりなのに
ゴミ拾いなんて　むなしいものね
それでもやっぱり　続けるだろうね！

※曲は「恋心（岸洋子歌唱）」かも！？

〇沖田　航平　～～

清掃活動を通して、「ゴミは土に還らない」ということを再認識させられました。この先２０年で、美しい街づくりのために自発的に行動する人がもっと増え、大堀川のみならず柏全体がより良い街となることを望みます。

〇沖田　直樹　～～

まだ参加して間もないですが、会員の皆様の熱心な関わりに頭が下がる思いです。

地元で２０年続いた活動の灯を絶やさないように、３０年、４０年に向けて少しずつ会員や清掃参加者の輪を広げるお手伝いを息子とともにしていきたいです。

〇尾曲　俊男　～～

大堀川沿いをウォーキングし、捨てられているゴミの多さに憤慨！

以来１２年、最近はポイ捨てされたゴミも大分少なくなり(^_^)　ゴミ拾いすることも大切ですが、ポイ捨てしないことがもっと大切だなあと思う昨今です。

〇加藤　哲男　～～

排水処理に携わった者として手賀沼のワースト１は惹かれるところがあった。その一環として当会を知り入会した。

今、大堀川の水質は悪くない。手賀沼も北千葉導水で調整している。今後も水質監視を続ける。

〇金木　誠　～～

入会して１０年余りが経過していますが、春・秋の大掃除には全て参加し、１０周年・１５周年の記念イベントも懐かしく思い出されます。

初めての胴長作業で、浸水で携帯電話が故障したことや、１５周年パンフの表紙に、自分のカワセミ写真を採用頂いたことは、忘れがたい出来事です。

〇冠木　栄治　～～

『ヤッパリ魚獲りは面白い。』

定年退職後に地金堀を散歩している折り、何人かが川に入ってアミで魚を獲っていました。私が入会した動機はこれを見て「そうだこれをやりたい」と思ったからです。というのはガキの頃に毎日やっていたからです。

寺尾さんの声掛けで始めた「トラップ」による魚獲りではいろんな魚が獲れました。クチボソ（モツゴ）、鮒っこ、鯉っこ、タナゴ、ヌマエビなどたくさん獲れました。ビックリのは３０cm もあるライギョ、でかいガマガエル、〇〇ガメ、巨大な手長エビが獲れた時です。

去年は魚獲り三昧で終わりました。獲った魚は近所の店「まつばR」の水槽で飼っています。見に来てください。

〇河井　弘泰　～～

「こんにちは大堀川くん」♪♪

1）夕べの雨粒集まって
大堀川へやって来た
スイスイ泳いで手賀沼へ
曲がりくねった手賀川を
下って来たぞ利根川へ

ゴールはなんと太平洋
その源の大堀川
みんなできれいにするんです

2）は割愛

※作詞者の声「作曲者募集中です！」

〇木村　守　～～

放置自転車の散乱する大堀川の清掃を始めてから、１０周年には利根川導水の注入により、鮭の遡上を見ることが出来ました。また、２０周年を迎える大堀川は外来種植物の侵入を受けて、その対策が憂慮されています。残り少ない人生、悲喜こもごも大堀川を楽しみたいと考えています。

〇黒田　博和　～～

「渡る水辺はゴミばかり？」で始めたという会で、「花曇り 水面漂う ポリ袋」、「ざぶざぶと 夏川さらう 子どもたち」、「秋光の 岸辺に集う 掃除びと」、「春を待つ 土手沿い辿り 息あがる」という１年です。

〇小林　としえ　～～

大堀川にゴミがなくなり清流が流れ、春は満開の桜まつり秋は紅葉と柏市内の水辺の憩いの場所となれば「大堀川の水辺をきれいにする会」は解散です。そんなことは夢の又夢かな？？？

〇佐藤　義喜　～～

私が自分の周辺のゴミを拾うようになったのはかれこれ２０年ぐらいになると思います。

ゴミ撲滅の活動に費やしているエネルギーは莫大なものではないでしょうか。

地域だけで考えることではなく、行政府がもっと真剣にゴミ減量について議論するべきではないでしょうか。

〇新保 徹也　～～

現役時代は地域貢献など無縁。２００８年に退職し大堀川清掃に加入させていただきました。

清掃後や例会後での飲み会は、爽快感とメンバーの人柄に触れ極楽極楽。せめて８０歳までは。

〇高橋　富男　～～　（河井記）

山登りが何より好きで珈琲メーカー等リュックに忍ばせ柏駅へ急いだ２０１６年１０月８日夜、彼は天国へ召されました。当会の繁忙な事務局を一人で献身的に務め、大堀川の掃除は勿論、花壇整備、水質・生き物調査、更に懇親旅行幹事まで引受け会にとって貴重な人材でした。享年７３歳、ご冥福をお祈り致します。

〇堤田　敏夫　～～

２０年前、通勤途上の大堀川は臭いドブ川でぷくぷく泡も出る水面には多くの自転車や投棄された粗大ゴミがいっぱいありました。

そういった中、堤を歩いていると、当会発起人・寺尾さんが作った呼掛けチラシに見事釣られ、当初より活動参加しています。

昨今、ゴミが問題視される状況から脱した気配ですが、外来植物の出現、残留放射線の問題、手賀沼に残る粗大ゴミなど等まだまだですね。

〇寺尾　直宏　～～

大堀川２０年で何が楽しかったかだと。

そりゃ、魚捕りさ。地金掘りに追い込んだ魚を網で囲み、中の魚を子供たちに手網で掬わせる。跳ねる鯉が入った手網を必死で持ち上げる子供達の笑顔。

大堀川って良いよなぁ。

〇中野　一宇　～～

大堀川を散歩し流れる白いゴミ袋を見るたびに、現役時代、世の役に立つと考え取り組ん

だモノがと自省の念に駆られます。
　原子力も然り、ゴミを出さない生き物達と共存する地球、人間中心主義ではなく生物連鎖の下で成り立っている事に十分留意したいものです。

〇深津　章文　～～

　退職後に見かけた「レッツ市民活動体験」で当会を知り、インターンシップ体験後に入会。
　そもそも「愚直に掃除する」姿勢に惹かれ早や６年が経過。東日本大震災後は必ずしも愚直には行かない面も多々あるものの清掃後の達成感は格別！！

〇藤井　昭義　～～

　当会は今年発足２０周年の節目となり、人生に例えると晴れて成人式を迎えたわけです。”継続は力なり”と言います。皆様の期待に応えられるよう、愛される美しい大堀川のため会員一同頑張りましょう。
　なお、一層のご協力をお願いします。

〇藤波　義正　～～

　大堀川の土手を散歩していて何時も川がきれいなので、誰が掃除をしているのかなと思っていたところ大堀川の会があることを知り少しでも役に立てればと平成２１年に入会しました。微力ながら体力のある間は清掃に参加しようと思います。

〇船田　英司　～～

　入会して早や１０年が過ぎました。パソコンをしない主義の私が、情報不足を感じることなく、ここまで続けることが出来たのは、皆さんのサポートと川掃除が好きだという気持ちがあったからだと思います。
　パソコンの苦手な人でも大丈夫ですよ。

〇増田　捷紘　～～

　２０１６年１０月１６日（日）「大堀川の秋の大掃除」から参加いたしました新人の増田です。中野様の紹介です。老体にムチを打って頑張ります。皆様の熱意に感銘しております。
　今後ともよろしくお願いいたします。趣味は“掃除”、あけぼの町住民です。

〇山口　善範　～～

　平成１４年退職後の行動を思案していた頃に新聞にて当会の活動記事を見た。
　通勤途上には目にしていた川なのにその川の汚れなど関心も持っていなかった。心ある方々の活動に大いに興味を持ち入会。当初はゴミも大量であったが最近は当会活動が認知されたのか働きがいがない様。
　多くの知己を得、行動範囲も広がった。今後も微力ながら参加し続けたい。

〇湯原　清　～～

　６０歳で定年退職し、このまま家にいて外に出て活動しないのでは、家にいて昼間からお酒を飲んでいては…と思い外に出ることにしました。
　大堀川の会では一時事務局をしていましたが、今は定例会議の後の飲み会が楽しみで、幹事役を買って出ています。

６．今後の活動に向けて

皆様に支えられて、当会も創立２０年を迎えることが出来ました。「２０年」と言えば「成人式」を想起しますが、果たして当会は「大人として」活動出来ているのでしょうか？

立ち上げ当初には未知な課題が多く、会員それぞれが英知を集めて流れを作って下さいました。その後は、ある程度慣習となったイベントを定例的にこなす事で活動が維持されてきていました。

その状況が２０１１年の大震災後の福島第一原発の放射能漏れ事故により一変しました。毎年夏の行事として、特に小さいお子さんに人気のあった「夏の生き物調査」の開催場所で観測された放射線量が規定値を越えたことにより「立入禁止」の措置がとられてしまったのです。毎年、多くの子供達が目を輝かせて手掴みで魚に触れる機会が奪われてしまったのです。会員による放射線量の測定もして、地面を５cm 掘れば線量が大きく下がるとの知見も得ました。そして、2～3 時間の活動で浴びる線量は微々たるものだということも理解しました。「じゃあ、自分の孫を連れて来られますか？」との質問に首を縦に振る会員は居ませんでした。

地金堀との合流地点の立入禁止看板

これを契機に、過去の慣習に捉われずに、色々なケースを考える習慣が芽生えて来た様です。外来植物のナガエツルノゲイトウの異常繁殖も考えねばならない状況を我々に突き付けてくるのかも知れません。「大人になった」当会は、大堀川の現状を見守りつつ、これらの課題に真摯に向き合って行かねばならないと考えております。

編集後記

本来、川は降った水を海に流す通路の筈だが、今の大堀川は人間の出す排水と利根川から引込んだ水が大部分である。都会の川の運命か。（加藤）

敗戦直後の極端なモノ不足時代を経てきたせいかなんでも後生大事にとっとくタチなんですが、後になってみるとガサネタばっかし。ホントに欲しい記録は残ってないなぁと痛感。もーつ、自分じゃマアマア書けたと満足した文が人には中々伝わらないし、分って貰える文が思うように書けない歯痒さ。反省、、（河井ヽ(_ _)ゝ）

２０周年の記念誌の発行にあたり、企画から各会員の役割分担など時間をかけて手作りの記念誌を作ることができ、当会の底力を感じました。１０年後の大堀川がどんな変化をしているのか、また私自身の１０年後を想像しながらの編集後記とします。（小林）

１０周年誌も担当しましたが、その時は２０周年誌があろうとは思いもしませんでした。長く続いてきたものです。ならば３０周年も？！みんなで迎えたいものです。（堤田）

創立２０周年となるこの年に、たまたま事務局を担当していたことにより記念誌編纂の栄誉に浴することが出来ました。この春で入会して７年となる若輩者ですが、編纂を担当させて頂いたことで、過去の記念誌を熟読し当会の流れをよく理解することが出来ました。（深津）

大堀川ゴミ拾い七つ道具

1997 は会創立年

救命胴衣

胴長靴（靴底剥がれやすい）

黄袋：一般小物用（今は無印）
青袋：一般大物用（取っ手なし）
ネット袋：粗大ゴミ用

引っかき棒：川中でゴミ引っかける

ロープ：粗大ゴミ引揚げ用

イザとなれば
ゴムボートも出動

作 Kawai　2016.12